新たな生命論の構築に向けて

医学部　解剖学講座　主任教授
竹田　扇　TAKEDA, Sén
URL：https://researchmap.jp/drmedsta

人文科学

板橋キャンパス

キーワード：バイオエシックス、解剖教材、医学史、デカルト、生命論

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

解剖学という分野はヒトの死体を扱います。篤志献体と呼ばれる制度のお陰で医学生は模型からではなく、本物から人体の構造を学ぶことが可能となります。従って、その形態の多様性を知り（文献［1］）、同時に医療倫理の実際に触れる機会も多くあります（文献［2］）。他方、古くから解剖模型も使われてきました。その意味はどこにあるのでしょうか。それは実体の複雑性を捨象し、本質的な部分を表象化して概念に転化し知識を体系化することではないかと考えられます。その様な観点から解剖学教材について医学史的な研究を行っています。またそこにはヒトを機械として捉える思考が横たわっていると考え、人体を機械論的に解釈した一人である Descartes, R. の医学論の翻訳と論考を上梓しました（文献［3］）。現在、デカルトが遺した解剖学関係の論考の翻訳と解釈を更に進めており 2025 年度中に刊行予定です。

一方生命科学の進歩と共に、これまでの生命倫理を超えた新たなバイオエシックの思考が必要とされる時代になりました。これに関しての論考（文献［4］）や、欧米の影響を受けながら日本のバイオエシックスがどう展開してきたかを当事者にインタビューしてその源泉を探る試みも行いました（文献［5］）。

今後は医学史の観点から（文献［6］）新たなバイオエシックスや生命論を論じていきたいと考えています。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

ヒトの身体を巡っては生体、死体共に様々な問題群の広がりがあります。生体に関しては臓器移植、生殖医療、エンハンスメント医療など、境界領域では脳死が、そして死体に関しては不適切使用、死体売買、興行的展示などです。本研究はこれらの問題に対しても多角的な対応策を提示し、人間存在の在り方を考える基盤を形成します。

知的財産・論文・学会発表など

［1］**Takeda S**. Does absolute normal exist? Editorial. *Anat. Sci. Int.* 99: 237-238. 2024.
［2］**竹田 扇**：卓越性とヒューマニズム. 第 56 回日本医学教育学会大会　連携探索シンポジウム 2024.
［3］山田 弘明, 香川 知晶, **竹田 扇** 他：デカルト医学論集. 法政大学出版局. 2017.
［4］**竹田 扇**　バイオエシックスの展望.（坂井 昭宏、松岡 悦子編）東信堂. 2004
［5］**竹田 扇**　生命倫理の源流.（小松 美彦、香川 知晶 編）. 岩波書店. 2014.
［6］**竹田 扇**　医学史事典.（日本医史学会 編）丸善出版. 2022

全国郵便番号界 ウォーカビリティ指標の整備と公開

経済学部　経済学科　講師
谷本　涼　TANIMOTO, Ryo
URL：https://researchmap.jp/ryo_tanimoto

人文科学

八王子キャンパス

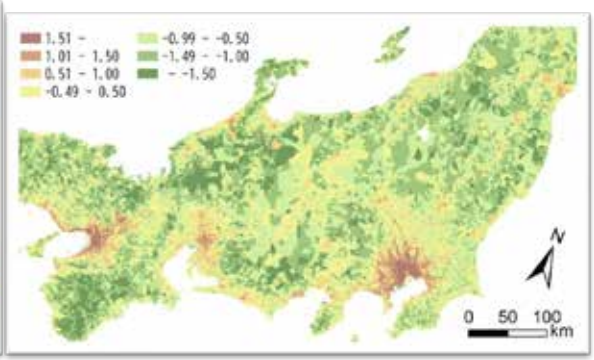
キーワード：ウォーカビリティ、アクセシビリティ、GIS

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

研究の概要

コンパクトシティ計画やまちなかウォーカブル推進事業など、ウォーカビリティ（徒歩での暮らしやすさ）向上への関心が高まる中で、**「ある地域 / 都市はウォーカブルか？」を、広範囲で一貫した定量的な基準に基づいて測る Walkability Index（WI）**の需要が増しています。谷本らは、日本全国の郵便番号界単位の WI（**JPWI**）を作成し、多方面への応用を前提に無料で公開しています。

大まかには、郵便番号界内の代表点（人口最大の 5 次メッシュ中心）から 1km 圏内の人口密度・生活関連施設種類数・交差点密度を GIS 上で測定し、標準化の上で合算しスコア化したものです。これら 3 要素は、先行研究で、徒歩での暮らしを促進するマクロレベルの環境要因としてすでに明らかにされているものです。日常生活におけるさまざまなものへのアクセシビリティや利便性を踏まえた設計で、都市部住民による歩行量と JPWI との間の有意な相関も確認済みです。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

現代において目指されるべき街のあり方の実現度と、さまざまな地理的事象との関係性の考察に使っていただけるような指標です。たとえば、ウォーカビリティと、健康指標（疾病の罹患率、住民の要介護度、BMI、歩行量、…）との関係、経済指標（店舗の売上、不動産価格、…）との関係、交通利用（乗降客数、トリップ数、…）との関係など、アイデア次第で、さまざまな目的に活用可能です。すでに、主に健康・福祉分野の研究を中心に多数の問い合わせをいただいており、JPWI を活用した成果が複数公表されています。

詳細は、下記論文をご参照ください。ローデータは、論文公開サイト（J-STAGE）に付随した J-STAGE Data にて公開しています。

知的財産・論文・学会発表など

・谷本涼・埴淵知哉・中谷友樹 2023. 全国郵便番号界ウォーカビリティ指標の整備と有用性の検討. 季刊地理学 75: 16-26. https://www.jstage.jst.go.jp/article/tga/75/1/75_16/_article/-char/ja/

ご利用の際の説明書なども J-STAGE Data にございます。

アジア太平洋への道の再考

経済学部　国際経済学科　教授
ミシュラン フランク　MICHELIN,　Franck
URL：https://researchmap.jp/7000005128/

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：歴史、国際関係、アジア、太平洋

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

研究テーマは「近現代における日本と世界」です。これまでは「仏印進駐」に関する研究を行ってきました。フランスで 2019 年出版の文献の日本語版を 2026 年に和訳版を出版する予定です。

現在、日本帝国陸軍の歴史に関する大部の総合研究の執筆を終えつつあります。この研究は 2025 年冬にフランスで出版される予定です。

新たなテーマとして「太平洋戦争勃発への道を再考する」を掲げています。日中戦争勃発から太平洋戦争勃発に至るまでの過程を、一次資料に基づいて研究していきます。米・英・仏・日の 4 カ国の資料館で一次資料を収集し、従来の研究を再検討したうえで、太平洋戦争勃発に関するさらなる分析を行いたいと考えています。課題は、本年、日本学術振興会の科学研究費助成事業「基盤研究（C）」に採択されました。

特に、日米交渉に関する解釈に一歩引いた視点から、1937 年から 1940 年にかけての日本の南進の重要性を証明したいと考えています。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

人文社会科学一般、とりわけ歴史は、強い国家と輝かしい未来を築く上で根本的な役割を果たします。「過去を覚えていない人は、過去を繰り返す運命にある」というジョージ・サンタヤーナの名言は、未来を築くために歴史がいかに重要であるかを示しています。これは学生一人ひとりの教養のためだけでなく、彼らの人生においても、そして自国のみならず他国の歴史にも思いを巡らす力を持つことが、より賢明な選択をする助けになると考えています。

知的財産・論文・学会発表など

- 『太平洋戦争はインドシナから始まった－1940 ～ 1941 年』Passés Composés 出版、2019 年（日本語版は 2026 年、ミネルヴァ書房刊予定）.
- 「芳澤謙吉と南進 －太平洋戦争への岐路に立った外交官－」芳澤謙吉翁顕彰会『外交生活 60 年 戦争の時代を国益のために尽くした外交官 芳澤謙吉翁』2023 年、171 ～ 198 頁.
- 「太平洋戦争はインドシナで始まった－紛争勃発の過程を時間軸に沿って再考する－」『日仏文化』91 号、日仏会館、2022 年 3 月、129 ～ 144 頁.
- 「秋田の渋沢栄一」『日仏文化』91 号、日仏会館、2022 年 3 月、152 ～ 157 頁.
- 「1839 年から 1914 年にかけて極東で活動したフランス人の銀行家、企業家、実業家、および技術者たち」（Dominique Barjot との共著）『交差と連結：1800 年頃から 1945 年までの東アジアと世界』国際歴史学委員会、帝京大学、2024 年 10 月 26 日.

地域防災力の向上に資する応用地理学的研究

経済学部　地域経済学科　教授
坪井　塑太郎　TSUBOI, Sotaro
URL：https://researchmap.jp/tsuboi_sotaro/

人文科学
宇都宮キャンパス

キーワード：地域防災、被災者支援、応用地理学、防災教育、地理情報科学

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

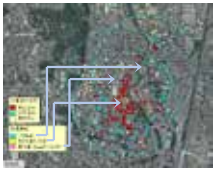
研究の概要

① GISを用いた地域教育研究

GIS「を」教えるから，GIS「で」教える教育への転換へ
▽ GIS地域教育体系の構築
▽ 地域DATASCIENCE展開

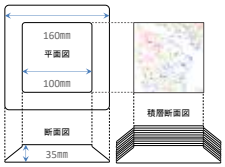
② 災害記録研究・災害対応体制研究

災害による「個人の記憶」を「社会の記録」へ
▽ 災害記録調査の方法論の構築と技術蓄積
▽ 災害記録の継承
▽ 地域防災への援用

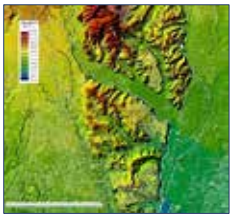


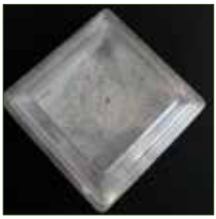
自治体災害対応力強化に向けた本部体制・空間配置計画に関する研究
▽ 本部空間配置計画
▽ 災害対応訓練設計

③ 地図を用いた防災教育に関する研究



地図を「みる」と「つくる」から考える防災教育
▽ 透明プラスチック容器蓋を用いた立体地形模型の作成　（簡易版3D立体地形模型）
▽ Open Dataを用いた教材作成技法と学校・地域への教育展開　（汎用・安全・廉価・簡便）





実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

▽ 地域共創時代の地理情報科学 → 従来の異なる組織同士との「連携」から，価値や効果等を生み出すための「共創」の時代への変化＝「災害対応力」と「地域防災力」の向上に資する研究取組み
→ 防災の「伝え方」の変革（被害と支援の地図化・地域タイムラインの作成と自主防災組織育成）
▽ 多様な主体間での協働・調整・実践を通して災害対応を含む社会問題の解決に資する「社会技術」（Social Technology）による地域研究の推進
▽ 社会や教育等の現場で「援用可能」な，簡便・廉価・安全な技術・技法の開発と発信
▽ 地理情報の活用による「地域データサイエンス」の体制構築と教育展開・発信

知的財産・論文・学会発表など

- 坪井塑太郎（2023）洪水災害による重複被災と生活復興に向けた支援体制に関する研究−佐賀県杵島郡大町町を事例として，環境情報科学学術論文集（環境情報科学センター），37，pp.202 ～ 207.
- 坪井塑太郎（2020）GIS を用いた洪水災害による被害と避難状況の可視化−令和元年台風第 19 号における栃木県宇都宮市を事例として，情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集（日本建築学会），43，pp.460 ～ 465.
- 坪井塑太郎（2017）熊本地震における西原村の災害対応と被災者の生活復興感・健康評価に関する研究，環境情報科学学術論文集（環境情報科学センター），31，pp.77 ～ 82.

行動からみた都市の研究

経済学部　経営学科　講師
伊藤　修一　ITO, Shuichi
URL：https://researchmap.jp/itoshu-geog

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：都市、空間的行動、意思決定、認知、ジェンダー

SDGs 目標 5：ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

研究の概要

都市をはじめとする地域の形成には、個人や集団の意思決定とそれに基づく行為・行動が深くかかわる。これまでに、地域統計分析やアンケート調査、インタビュー調査を通して、千葉ニュータウンを例として、郊外住宅地の形成を夫婦の居住地選択過程への関与から解読したり、既婚女性の非正規労働者が多い郊外の特徴をジョブサーチの過程から解明することを試みてきた。

最近取り組んだ研究として、1972 ～ 2021 年の破産率の分布パターンの推移の分析がある（下記①、図 1）。期間全体では九州地方を高値、中部・関東地方を低値とした西高東低パターンが優勢だが、平成不況の影響下で破産率が高い時期以降は東京都や大阪府で高値となるといったパターンの変化が明らかとなった。この結果からは都市の再編過程における衰退現象との関係が示唆される。

また、個人の意思決定に影響を与える地域の認知にも関心を寄せている。最近の研究として、大学生を対象とした反復横断調査から、都内の 53 の市区町村の地名認知の時系列的傾向を分析したものがある（下記②、図 2）。とくに名称の認知傾向は、位置のそれと比べて安定的に推移している。調査対象地と各市区町村との間の距離や人口といった各市区町村の持つ特性が認知傾向の安定性に影響していることがうかがえる。

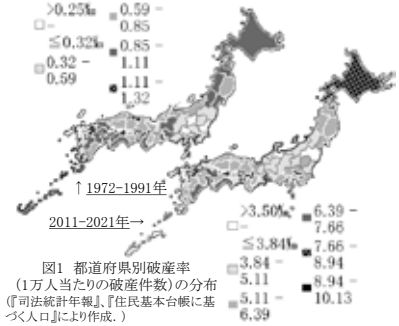


図1　都道府県別破産率
（1万人当たりの破産件数）の分布
（『司法統計年報』、『住民基本台帳に基づく人口』により作成．）

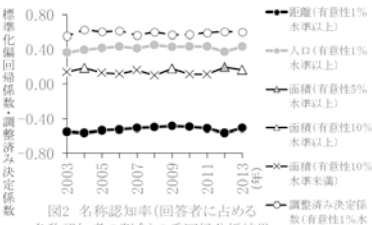


図2　名称認知率（回答者に占める名称認知者の割合）の重回帰分析結果
（質問紙による調査結果により作成．）

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

研究で活用する地域統計分析の手法を生かして、外部企業から駐車場設置台数の予測モデル作成の受託経験がある。また、地理情報システムの活用経験を生かして、外部団体による地理情報システム資格講習会の講師を務めている。

上述の破産率の分布パターンの推移に関する研究成果は、大きな経済変化に伴う破産発生の地域的な波及予測のヒントを、地名認知に関する研究成果は、たとえば観光などの分野において、地域の知名度を上げる際のヒントをそれぞれ提示している可能性がある。

知的財産・論文・学会発表など

【論文】
①伊藤 修一 2023. 都道府県別にみた破産率の空間分布パターンの変化. 地域生活学研究 14：40-50.
【学会発表】
②伊藤 修一 2020. 大学生による東京都内の市区町村の名称と位置の認知の時系列的傾向. 2020 年日本地理学会春季学術大会.
③伊藤 修一 2023. 都道府県別にみた男女別大学進学の残留率の推移. 2024 年日本地理学会秋季学術大会.

米国の中東政策

経済学部　経営学科　教授
岡本　道郎　OKAMOTO, Michiro
URL：https://www.e-campus.gr.jp/staffinfo/public/staff/detail/10317/18

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：中東、イラン、イスラム、アラブ、湾岸、米国、外交、安全保障、日本、民主主義

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

地政学的重要性が高く、日本の国益にも直結した地域である中東において、20 世紀後半から大きな影響を与えてきた超大国米国の中東政策をフォローしている。

1970 年代以降、英国に代わり中東安全保障を担ってきた米国の中東政策に焦点を当て、イラン革命、イラン・イラク戦争、湾岸危機・戦争、9･11 後の対テロ戦争、イラク戦争、イラン核合意・離脱などの経緯を歴代政権ごとに検証。ガザ戦争、イスラエル支援、レバノン情勢など最近の米政権の政策も注視している。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

日本の中東戦略、対米外交への指針、視座

知的財産・論文・学会発表など

▽**学術論文**　“U.S.　MIDDLE EAST POLICY AND JAPAN’S INTERESTS IN THE POST-COLD WAR ERA ”　Michiro Okamoto　June 2001, USJP　Occasional Paper 01-04　Program on U.S-Japan Relations , Harvard University
▽**著書**　「ブッシュ VS フセイン　イラク攻撃への道」(2003 年 3 月、中公新書ラクレ、中央公論新社)
▽**季刊「読売クオータリー」論文**
「アメリカ中東戦略の歴史的転換」(2015 秋号)、「機関誌『ダービク』から読み解く『イスラム国』の論理と限界」(2016 春号)、「トランプ流中東戦略を読む」(2017 春号)、「米国の凋落と『新冷戦』」(2019 冬号)、「イラン革命 40 年の意義と限界」(2019 春号)、「『トランプ後』中東政策の障壁」(2021 冬号) ほか

北西ヨーロッパにおける農村再編に関する地理学的研究

経済学部　観光経営学科　准教授
飯塚　遼　IIZUKA, Ryo
URL：https://researchmap.jp/r-iizuka

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：ルーラル・ジェントリフィケーション、フードツーリズム、北西ヨーロッパ地誌

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

研究の概要

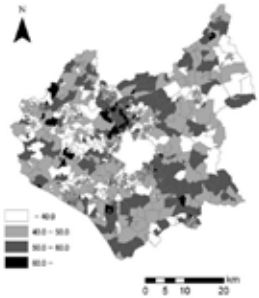
北西ヨーロッパ（主にベルギー、イギリス）の農村を対象として以下の研究を中心に進めている。

①ルーラル・ジェントリフィケーションに関する研究

ヨーロッパでは都市におけるジェントリフィケーションと同様に、一部の農村地域において専門職に就く高所得者層（サービス・クラス）が流入することによりジェントリフィケーションが生じている。そのようなルーラル・ジェントリフィケーションが地域に及ぼす影響を地理学的な視点から多角的に捉えることを目指している。

②農村資源を活用したフードツーリズムに関する研究

ヨーロッパの農村においては地域の郷土食やお酒などの飲料にまつわる食文化が観光資源として商品化されている。そのような農村資源の商品化は地域にどのような変化をもたらすのか、またそのような資源を活用するフードツーリズムを持続可能なものとする要因は何かについて明らかにすることを目指している。



左図：イングランド・レスターシャーにおけるサービス・クラス層の分布（2011 UK Censusより作成）

写真：ベルギー・フランデレン地域における農村景観を「見せる」ブルワリーのカフェ

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

田舎暮らしや田園回帰に代表されるように農村居住が注目される現在、ルーラル・ジェントリフィケーションによる影響を検証することは、農村の維持・存続のためにも重要なことである。また、農村の観光振興においても持続可能性という「質」が求められている。以上の研究は、農村振興における基礎となる事例研究であり、日本の農村部における景観やコミュニティのマネジメントや、農村政策、各種計画などの改善や向上に貢献することができる。

知的財産・論文・学会発表など

- 飯塚 遼・矢ケ﨑太洋・菊地俊夫 2021. ビールツーリズムを通じたロカリティの再編と広域化―フランス・ノール県ダンケルク郡を事例に―. 観光科学研究 14: 87-96.
- 飯塚 遼・菊地俊夫 2021.『観光地誌学―観光から地域を読み解く―』二宮書店.
- Iizuka, R. 2023. Marginal gentrification and demographical impact of COVID-19 on the Greater Tokyo Area. Association of American Geographers Annual Meeting: March, Denver.

江戸の村に民主主義の源流を探る

法学部　政治学科　教授
柿﨑　明二　KAKIZAKI, meiji
URL：https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_　（ID=202301009210252 88）

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：民主主義、選挙、江戸、村

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

選挙（入札）による名主選出、百姓代による村政運営監視など江戸時代後期、全国の村々で発達した自治制度の実態を明らかにする。さらに、政治学の観点から民主制度の芽生えとして位置づける。このことによって戦後、アメリカによって導入された欧米原産ではない日本原産の民主主義を見出し、投票率の低下、無投票の増加など選挙制度の形骸化を食い止める方策を探る。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

選挙をめぐっては「民主主義の学校」と位置付けられる地方自治体で、低投票率、無投票、定員割れなど、制度の形骸化が急激に進んでいる。投票率は 40%、30%台が平均となっており、もはや多数決ではなく、少数決状態に陥っている。特に若年層の投票率の低さが、克服できないまま推移している。遠く離れた欧米ではなく、自分たちの先祖が年貢負担などの公平性を求めて、入札（選挙）、行政監視など高度な自治制度を生み出してきた過程を知ることで、従来とは違った主権者教育となり得る。

知的財産・論文・学会発表など

出版

「『江戸の選挙』から民主主義を考える」（2023 年　岩波ブックレット）

前近代の情報検索

文学部　日本文化学科　講師
梅田　径　UMEDA, Kei
URL：https://researchmap.jp/KEIUMEDA

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：古典文学、小山田与清、索引、データベース

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

近世末期の国学者、小山田与清』の索引類、特に「群書捜索目録」の研究をしています。

与清は語彙・字句の情報を蔵書中から検索できる索引を開発した人物です。

私はそれまで冒頭から末尾まで、通して読まなければならなかった前近代の「テクスト」を「データ」として活用しようとした最初の人物として学術史上に位置づけようとしています。与清は、膨大な蔵書とそれを活用するための索引の構成、門弟や子息による学術組織の編制によって、近代学知が前提としてきた典拠や証拠から論じる実証主義的でありながら組織的な研究手法を先取りしていました。与清はこうした組織的な研究手法によって、ここの文章において量的に膨大である記述を、人文学における知的営為の訴状に載せたのです。情報科学によって進展してきた量化的手法を江戸期に実現しようとしたとすら言えるかもしれません。

現代においても実証的学問が必要とする知的営為において、どのようなニーズのもとで、どのようなツールが作られたのか。与清の研究からは、学問や知識が進展するための条件や環境を明らかにすることができるのです。

国立国会図書館蔵『群書捜索目録　書紀類語』

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

例えば、ビッグデータや自動化といった広く情報を扱う科学におけるニーズが、そもそもどのような知的活動の中から生まれてくるのかを考える上で、前近代の知的活動に目を向けてみてはどうでしょうか。コンピューターが存在しなかった時代において、計算や検索をどのように効率化しようとしたのか、あるいはなぜ効率化できなかったのか。原始的に思われる前近代の文献や学問的知識の諸相を扱うことで、現代における我々の知的活動のニーズの根源や由来を明らかにすることができるのです。

知的財産・論文・学会発表など

梅田径「小山田与清の子息をめぐって－与叔と清年と蔵書の関係－」（『青山語文』五三号、二〇二三年三月）、同「小山田与清旧蔵書のゆくえ　附〈翻刻〉早稲田大学図書館蔵『明治四拾年六月調 高田氏寄託図書目録』」（『緑岡詞林』四六号、二〇二二年三月）他

日本近現代文学と同時代メディアとの相関関係に関する研究

文学部　日本文化学科　講師
影山　亮　KAGEYAMA, Ryo
URL：https://researchmap.jp/ryo1119

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：日本近現代文学、大衆文学、雑誌・新聞などのメディア研究

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

日本近現代文学、特に大衆文学と呼ばれたエンターテイメント性の強いジャンルが主な研究対象。また読解だけでなく、コンテンツ・メディア・コミュニティ・人間関係など、文学を取り巻く文化的・社会的な事柄にも視野を広げている。今後もエンターテイメント的文学から芸術的文学までをトータルに視野に収めた、文学的メディア史を実証的手法によって明らかにする。

『「桃太郎侍」を書いた男
山手樹一郎と同時代メディア』

太宰治『人間失格』と初出雑誌『展望』

「遠山の金さん」原稿

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

文学的コンテンツのマルチメディア的展開の様相、その実態の解明など、今日の文化状況全般を把握することに寄与する研究を進めている。こういった一連の研究は、単に文学研究のみならず、エンターテイメントと芸術がシームレスにつながる今日の文化コンテンツを理解するための研究モデルを提供できる。

知的財産・論文・学会発表など

- 単著『「桃太郎侍」を書いた男 山手樹一郎と同時代メディア』（2025 年 1 月、埼玉新聞社）
- 編著『永井荷風』（2022 年 9 月、さいたま文学館）
- 編著『没後 55 年記念 江戸川乱歩と猟奇耽異（Curiosity Hunting）』（2021 年 1 月、さいたま文学館）
- 論文「大正中期の菊池寛における戯曲という経路「藤十郎の恋」を例に」（『帝京大学文学部紀要日本文化学』2025 年 3 月）
- 論文「占領下の時代小説ジャンルにおける〈新古交代〉言説」（『大衆文化』2021 年 3 月）

民俗芸能のネットワーク

文学部　日本文化学科　講師
髙久　舞　TAKAHISA, Mai
URL：https://researchmap.jp/takahisa.mai.bh

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：民俗学、民俗芸能、都市民俗学

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

研究の概要

「なぜ人は芸能を行い、伝えようとしているのか」という大きな問いが私の研究の主題です。

能楽や歌舞伎のような伝統芸能、各地で伝わる民俗芸能など日本各地には様々な芸能が伝えられています。芸能は生命を維持するための衣食住に直接関係ないはずです。にもかかわらず伝えられているには何かしらの意味があるはずです。

各地で伝わる芸能はそこで住む人々の文化が息づいています。少子高齢化、若者の流出など地域社会のあらゆる問題は、芸能にも大きな影響を与え後継者不足で続けられないところも増えています。

人がいなくては伝えられない、集まらなくてはできない芸能や祭り・祝祭を通して、多様な社会の在り方を問い直す必要があると考えます。

2017年八王子まつり

2023 年山北町　お峯入り

2019年渋谷ハロウィン

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

ハード面だけではなくソフト面を充実させることが地域の活性化につながります。私は、そこに住み、芸能を伝える人々に対して長年フィールドワークを行ってきました。現場の声を聞き、学術的に捉えることが研究者の役割だと考えています。行政と市民と研究者がそれぞれの立場から意見を出し、よりよい社会を作っていくことの重要性を感じています。また、都市部においては行政だけでなく企業との関係も重要です。例えば渋谷ハロウィンも若者文化として捉えながら、企業も含めて考えていかなくてはならない文化の一つと考えています。

知的財産・論文・学会発表など

・2016『芸能伝承論－伝統芸能と民俗芸能の演者と系譜－』岩田書院
・2024「民俗芸能の公開と継承：チャッキラコと山北のお峯入り」『郷土神奈川』61 号
・2024「渋谷を育てる若者文化」第 48 回日本文化を知る講座、國學院大學研究開発推進機構
・2020「八王子市における囃子と町会組織の関係性」『多摩のあゆみ』180 号　など

日本アニメーションの歴史研究

文学部　日本文学科　講師
萩原　由加里　HAGIHARA, Yukari
URL：https://researchmap.jp/yukarihagi

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：アニメ、マンガ、大衆文化、表象文化論

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

アニメーションの教育の歴史について

戦前に活躍したアニメーション監督・政岡憲三が、手塚治虫の依頼でアニメーター向けに 1960 年代に執筆した教科書が『政岡憲三動画講義録』である。

近年、この『政岡憲三動画講義録』の草稿である『漫画映画入門』（1948 年）もデータが発見した。これらの資料をもとに、勃興期の TV アニメ業界でアニメーター養成がどのように行われたのを明らかにしていく。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

幅広い教養を身につける手段としてアニメーションを中心とした映像分野を積極的に活用している。学生たちが子供のころから慣れ親しんできた分野を授業の中に取り入れることで、学術的に物事を考えるきっかけをつくっていく。

アニメーションを教育の導入部として取り上げ、その多様性を体験することで、文化とは何かを学生が考えることにつながっていく。

知的財産・論文・学会発表など

著書

・萩原由加里『政岡憲三とその時代 ―「日本アニメーションの父」の戦前と戦後』青弓社、2015 年
・政岡憲三・萩原由加里『人魚姫の冠　絵コンテ集』青弓社、2017 年

コモンズと日本文化・人文学・AI

文学部　日本文化学科　教授
濱田　陽　HAMADA, Yo
URL：https://researchmap.jp/yohamada

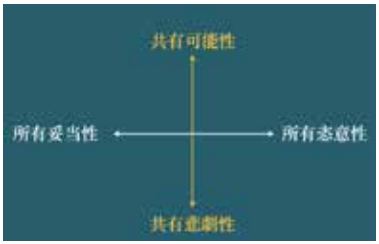
人文科学
八王子キャンパス

キーワード：コモンズ、比較宗教文化、AI、新たな日本文化史

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

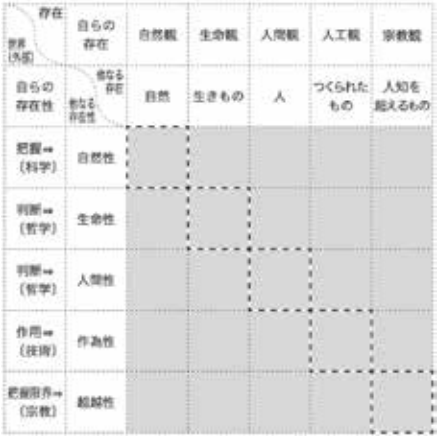
研究の概要

近年では、単著として『生なるコモンズ―共有可能性の世界』（春秋社、2022）、『生なる死―よみがえる生命と文化の時空』（ぷねうま社、2021）、『日本十二支考―文化の時空を生きる』（中央公論新社、2017）を世に問い、人文学の多面的な手法を通じて研究を行っています。自然、生きもの、人、つくられたもの、人知を超えるものの「五つの存在」の視点から、AI やロボット、生命工学が進展する現代に対応できる人文学の基礎概念や枠組みを再構築しています。また、さまざまな文化事例を研究し、新しい日本文化史の姿を描き出そうとしています。



（共有と所有のマトリクス）

（『日本十二支考』14 頁）



（『生なるコモンズ』192 頁）

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- 人間の存在を単にアルゴリズムやデータの流れとして捉えず、深い人間観や生死観をもとに人文学を探求します。このアプローチにより、人工知能や生命工学といった新しいテクノロジーの時代に応えつつ、「幸福の追求」についての洞察を提供します。
- 「五つの存在」の視点から、文化伝統や近代、物語を通じてその共存の姿を総合的に明らかにします。そして、日本文化の魅力を発見し、その豊かさと多様性を広く伝えます。

知的財産・論文・学会発表など

分担執筆　「ビッグヒストリーを超える、賀川豊彦の共有文明構想」『人類と文明のゆくえ』東海教育研究所、2024 年
論文　「コモンズの悲劇、生なるコモンズ」『比較文明』39 号、比較文明学会、91-100 頁、2023 年 11 月 30 日
メディア発表　「AI 倫理原則の最新潮流」『中外日報』2022 年 11 月 30 日付
https://www.chugainippoh.co.jp/article/ron-kikou/ron/20221130-001.html
学会発表　「AI 時空における死の観念の変容」日本宗教学会第 83 回学術大会、2024 年 9 月 14 日

装いと通過儀礼からみた公家社会の子ども

文学部　日本文化学科　助教
保田　那々子　YASUDA, Nanako
URL：https://researchmap.jp/nanako-y

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：服飾、貴族、通過儀礼、子ども、幼帝

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 5：ジェンダー平等を実現しよう

研究の概要

日本の服飾文化史、なかでも公家服飾について研究している。平成から令和への代替わりに関わる各行事でここのところ目にする機会が多かった公家の装いは、中国唐代の装いから受けた影響をいまだに色濃く残している。本来は男女の区別、成人と未成人の区別、官位の高下を装いによって表そうとしたもので、そこに日本独特の美意識や当時の社会事情が加わって、平安時代中期には現在に近い形に整えられた。

その後この公家の装いは朝廷権威の象徴となり、皇族・貴族の間で千年もの間（途中衰退の時期を経ながらも）着用され続けてきた。しかしその間の社会構造の変化と、身分表象としての公家服飾との整合性をどのようにして保とうとしてきたか、というのが研究活動における焦点である。

装いはまた、着用者の年齢階梯を示す指標ともなっており、公家の通過儀礼では特に儀式において装いを改めることに重点を置いている。この点に着目し、現在は公家社会の子どもの装いを中心に調査を行っている。特に、平安時代に初めて現れる幼帝（未成人の天皇）の装いから、平安時代中期から平安時代後期にかけての幼帝の性質の変化を考察している。今後は子どもの装いにおけるジェンダー観や、子どもという存在に対する時代的な認識の変遷に関しても検討を加えていきたい。

服飾の和様化のなかで生まれた童女の汗衫（かざみ）姿。「枕草子白描絵巻」（個人蔵）（小松茂美編『日本絵巻大成 10　葉月物語・枕草子絵巻・隆房卿艶詞絵巻』中央公論社、1978 年より）

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

宮中儀礼で着用されることから、日本の伝統的な装いとして認識されているが、形態が和様に変化しても依然として中国文化の影響が大きいのが公家の服飾である。重ねの色目など、美しさの追求により生まれた要素も加わるものの、あくまでも中国から取り入れた数々の制度のうちのひとつである。より厳格さを必要とする場面では、より中国的要素の強い装いが要求されていた。平安時代以降の和風と唐風が併存する中で、どのようにして現在に残る「伝統」が生まれたかを考察することは、現在と未来の「伝統」の在り方を考えることに繋がっていく。

知的財産・論文・学会発表など

≪論文≫
- 保田那々子「平安朝服飾の途絶と復活－産着細長を例に－」（『国際服飾学会誌』第 55 号、2019 年 7 月）
- 保田那々子「徳川将軍家への贈与例からみる産着細長」（『帝京大学文学部紀要日本文化學』第 52 号、2021 年 7 月）

≪国際学会発表≫
- 保田那々子「Comparison of Children's Court Attire between Japan and China; Focused on Ancient Japan and the Tang Dynasty of China（日中比較からみる童装束－日本古代と中国唐代を中心に－）」、第 30 回国際服飾学術会議、於・中央大学、韓国ソウル市、2024 年 8 月。

近代日本史に関する実証研究

文学部　日本文化学科　准教授
渡邉　公太　WATANABE, Kota
URL：https://researchmap.jp/kotawatanabe

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：近代日本、マルチ・アーカイバル研究

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

これまで、第一次世界大戦から戦間期にかけての 日本の外交政策について、外交指導者たちの構想な どから研究を行ってきた。また近現代の日本が経験 した大災害と、復旧・復興に関する問題についても 関心を向けている。現在はこうした過去の研究成果を引き継ぎつつ、より幅広い視野から、近現代日本の置かれた国際環境とそれへの対応の変化について研究を進めている。そのためには、これまで以上に海外の資料や研究成 果を採り入れながら、日本外交の特殊性を国際的視野から抽出することを目指している。基本的な研究手法は、国内外の資料館にある原文書を収拾・解析しながらストーリーを形成していくという、マルチ・アーカイバル手法を採用している。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

実学としての歴史とは、「年代記のくわしきものにて万国古今の有様を詮索」するものである（福澤諭吉『学問のすすめ』）。現代日本の抱える国際問題のルーツを探ると同時に、その解決策を導く上で歴史的研究の重要性はいくら強調しても足りない。歴史を学ぶことは、「身も独立し、家も独立し、天下国家も独立」（同上）することにつながる。

知的財産・論文・学会発表など

- 『第一次世界大戦期日本の戦時外交』現代図書、2018 年
- 『石井菊次郎』吉田書店、2023 年

出土文字資料を活用した日本古代地域史の研究

文学部　史学科　教授
相澤　央　AIZAWA, Oh
URL：https://researchmap.jp/ohaizawa

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：木簡、墨書土器、漆紙文書、地域支配、地域社会

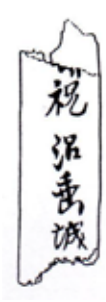
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

研究の概要

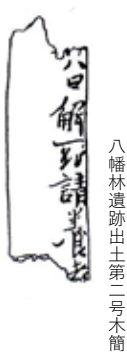
日本の古代国家は、多様性に富む地域をどのようにして支配したのか、古代国家の支配を受ける地域はいかなる社会であったのか。このような古代の地域支配の実態や、地域社会の実相を伝えてくれる文献資料（史料）は極めて少なく、一昔前までは考察困難な課題であった。

このような状況にあって、各地の遺跡の発掘調査によって出土する出土文字資料（木簡、墨書土器、漆紙文書など）は、古代国家による地域支配の実態や地域社会の在り方を解明するうえで極めて貴重な資料であり、いまや古代の地域史を考察する上で欠かせない資料である。

本研究では、古代国家による辺境政策や郡による民衆支配の実態、租税徴収や交通の実相、地域の開発や諸産業などについて考察している。



『日本書紀』に記された城柵「渟足柵」の実在を証明した木簡
和島村教委『八幡林遺跡』（一九九二年）より



新潟県長岡市
八幡林遺跡出土第二号木簡

新潟県柏崎市簑輪遺跡出土第一号木簡　駅家の位置を限定した木簡
新潟県教委・県埋文事業団『簑輪遺跡2』（二〇一五）より

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

出土文字資料を活用した研究の前提として、出土文字資料の解読作業と、その史料の意義づけについての考察は不可欠である。これまでにも、発掘調査を担当する自治体などからの依頼により、出土文字資料の解読を行い、その成果を発掘調査報告書等に分担執筆させていただいた。また、地域に関わる研究成果を自治体史や講演会、シンポジウムのような形で地域住民へ還元することも重要であり、これまでにも多く関わらせていただいた。

知的財産・論文・学会発表など

・相澤央『越後と佐渡の古代社会』（高志書院、2016 年）
・相澤央『雪と暮らす古代の人々』（吉川弘文館、2024 年）
・相澤央「中世の茅札と蘇民将来札」（『木簡研究』38 号、2016 年）
・相澤央「古代における調庸物の収取と運送－越後国の鮭を例に－」（『帝京史学』33 号、2018 年）
・相澤央「古代日本の雪」（『日本歴史』849 号、2019 年）
・相澤央「古代国府の成立に関する覚書」（『新潟史学』80 号、2020 年）

子どもをめぐる考古学

文学部　史学科　教授
阿部　朝衛　ABE, Asaei
URL：https://resaerchmap.jp/read0030626

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：先史時代、学習・教育、文化伝承・改変、資源利用形態

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

先史時代遺跡・遺物の編年・系統、石器材料などの資源利用形態、石器製作などの技能獲得方法、子どもの成長過程の研究を行っている。子どもの技能獲得方法の研究を進め、後期旧石器時代の石器製作技術に焦点をあてている。石器材料選択の適切さ、加工手順の複雑さ、道具操作の正確さ、失敗した場合の修正の適切さをもとに数段階の技能差を認識し、初期段階の下級者のものは 10 歳以下の子どもの作品と位置づけた。下級者は上級者が石器製作する場所の近くで作業していたと判断され、上級者の動作を見ながら学習・練習していたことは明らかである。最近では洞窟壁画の制作にも子どもが参画していることが明らかとなった。子どもの埋葬を検討すると、副葬品を伴って丁寧に葬られており、大人と同様な社会的地位をもっていたと考えられる。また、障害を抱えた子どものであっても社会的な保護があったと推定される。

下級者

中級者

上級者

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

先史時代においても社会の再生産上、出産と養育は重要な課題である。そこには身体の成熟とともに文化の継承・改変が関与している。後者には教育・学習活動が必須であるが、当時は大人と行動をともにしながらの能動的な子どもの学習があったと推定される。大人の活動の観察と模倣により技能や知識を獲得していたのであろう。現在の徒弟制に通じる教育形態であり、この学習と同時に社会的地位も獲得していたと予想される。H・サピエンスの誕生から約 30 万年が経過している。学校制度が成立するのはつい最近であることからすれば、現在においても社会との結びつきの強い上記のような実践的な学習形態も重視されるべきであろう。

知的財産・論文・学会発表など

2017「先史時代の子どもの年齢推定」『二一世紀考古学の現在』／2018「初期人類の子どもと最古の石器」『帝京史学』33／2018「原人の子どもをめぐる社会」『法政考古学』44／2020「ネアンデルタールの子どもと社会」『法政考古学』46／2022「初期新人の子ども」『法政考古学』48／2024「後期旧石器時代前半の子どもの埋葬と社会的位置」『帝京史学』39／2024「旧石器時代の子どもの年齢と活動」『法政考古学』50　すべて単著、その他は上記 URL 参照

アメリカ合衆国建国史

文学部　史学科　教授
石川　敬史　ISHIKAWA, Takafumi
URL：https://researchmap.jp/read0074086

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：ジョン・アダムズ、アメリカ革命、連邦制、アメリカ帝国論

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

私の研究は大きな括りでは、アメリカ政治外交史ですが、主な専攻は、アメリカ合衆国建国史、とりわけ第二代大統領ジョン・アダムズの思想と行動を研究しています。アダムズは、アメリカ革命理論の構想者であり、現在の連邦政府の基礎を創った人物です。こうした研究の意義は次の 2 点です。

① アメリカ合衆国という国の形を明らかにすることにより、今日のアメリカ合衆国を理解する視座を提示する。

② ヨーロッパ中心の西洋史という学問にアメリカを接合し、アメリカ合衆国を「近代から生まれた国」ととらえるこれまでのアメリカ観を改め、「現代まで生き残った近世国家」としてとらえ直す新機軸を提示する。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- 元財務省財務官で現住友商事顧問の中尾武彦氏がみずほ総合研究所理事長を努められていた際に「特殊にして普遍的な幻想の超大国」というアメリカ政治外交史の論考が取り上げられ、その内容がみずほ総合研究所で共有されました。
- 岩波書店の『思想』に「アメリカ独立革命史における帝国論」という論考を執筆しましたが、同雑誌の合評会がウェビなーにて開催され、産業界・メディア関係者を含む 415 名の視聴者を得る盛会となりました。古典的研究が現代を理解するために有用であることを示せたことは、歴史研究が実学であることを示せたと考えています。

知的財産・論文・学会発表など

- 石川敬史、「アメリカ独立革命史研究における帝国論」岩波書店『思想』2024 年 7 月号
- 石川敬史、「アメリカ合衆国はエンパイアの夢を見るか― 170 年の自由の歴史から始まった国」中央公論新社『中央公論』2022 年 7 月号。
- 石川敬史、「アメリカ革命期における主権の不可視性」日本政治学会編『年報政治学』2019- I 号。
- 石川敬史、「ジョン・アダムズの混合政体論における近世と近代』日本アメリカ学会編『アメリカ研究』2019 年 53 号。

日本美術の技法材料研究と教育普及

文学部　史学科　美術史・文化遺産コース　准教授
鴈野　佳世子　KARINO, Kayoko
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.f584af64124d7ff3.html

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：美術史、絵画史、技法材料、文化財保存学

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

◆調査

近世以前の伝統的な美術の技法材料を調査研究し、その体系化に努め、技法材料史学とも呼ぶべき新たな論系創出に取り組んでいます。本学の文化財研究所や学外の実技研究者とも連携し、科学調査による顔料分析や技法検証を行うなど、多角的な視点から日本美術の作品調査を行っています。

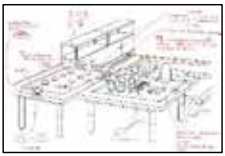
◆復元制作・作図

技法材料に関する研究成果を生かし、失われた文化財の復元制作にも取り組んできました。歴史学研究者の要請に応じて部分模写やトレース図作成も行っています。

◆ワークショップの企画開催

美術史分野の学生や若手研究者を対象に、出張ワークショップを行っています。日本の伝統的な岩絵具や金属材料を使って小品を制作し、日本絵画の美しさや画材の扱いの難しさ・面白さを体感してもらっています。参加者に自国の文化について知識を深めてもらうとともに、文化の多様性を尊重できる人材の育成を目指しています。

古画に用いられた顔料の顕微鏡写真


復元模写やトレース図の作成

技法材料や調査法に関するワークショップ

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

美術は国際社会における重要なコミュニケーションツールの一つです。日本の美術がどうやって作られ、伝えられてきたのか知ってもらうため、技法材料史に関する研究成果をワークショップや展覧会を通じて発信しています。美術史学と文化遺産学に跨る視点を持ち、幅広い知識と柔軟な思考を備えた人材は、博物館学の分野だけでなく教育・行政・放送・出版など様々なシーンで活躍が期待されます。また、貴重な文化財の保存修復や復元によって、文化財教育や観光資源としての活用にも寄与しています。歴史学的な考証を経て作成した模写やトレース図は、出版物の挿図や展覧会会場での展示資料としても利用されています。

知的財産・論文・学会発表など

- 科学研究費基盤研究 C「中世日本における色材流通と美術伝播の関係性の解明」（代表者：鴈野佳世子、24K03514）2024 年度～ 2027 年度
- 論文：「中世日本における色料流通に関する覚書」『帝京史学』第 39 号、pp.17-44、2024 年
- 発表：鴈野佳世子・京都絵美・久下有貴「大学教育における日本画ワークショップに関する報告」文化財保存修復学会第 46 回大会、2024 年、於：帝京大学

近代日本における機密費の研究

文学部　史学科　教授
小山　俊樹　KOYAMA, Toshiki
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.2b1f52b8f798ad6e.html

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：日本近現代史、政治、議会、行政、会計監査、政官・政軍関係

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

公的資金の監査と適正な使用をめぐる問題は、近年においても政治的な重要課題として浮上している。しかしこの問題は、わが国が近代化するなかで発達した、行政・議会制度のなかですでに見られる課題であり、根本的な問題点を考察するためには、歴史的な根源を探らなければならない。ただ従来は、残存する史料状況などの課題を克服できず、充分な研究は行われてこなかった。

そこで本研究では、近代以来の公的予算制度のなかで最も公開度の低い「機密費」を中心に取り上げて、わずかに残存する希少史料を捜索し、内容を分析して、機密費制度の歴史的経緯を探査する。そのことによって、内閣・諸官庁を中心とする行政の動向、および監査主体としての議会の問題などを考察する。

明治期における内閣機密費の引継文書（1911年）
「証　金五萬九千円也　内閣機密費　右正に引継候也
明治四十四年八月三十日」

「機密費」とは、議会が使途を査定できない秘密公的資金であり、戦前においては軍・諸官庁を中心に莫大な金額が使われ、議会制度を一部空洞化してきた経緯がある。そこで本研究では、機密費制度の形成と変遷をもたらした政治過程を検討し、制度の意図・背景などを分析するとともに、制度に影響をもたらした世論の動向、および不正や流用の防止などを目的とした各省庁の制度変革、監査体制の構築などの動向を調査する。さらにこれまでの研究過程で、発見された希少な諸文書・史料類は、近代（戦前）の歴史的文書であることを前提として、原則的には公刊・公開をめざし、広く研究の発展を促すことを企図している。

以上のように本研究では、従来不明であった機密費制度の形成と変遷にかかわる政治過程と通史的展望を、実証的な史料分析で明らかにすることをめざす。さらに近代・現代の両時代における公的資金監査の異同を考察し、その透明性確保と監査体制のあり方に関する提案・示唆を得ることを目的とする。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- 現代日本の政治システム、および会計監査制度の根源的課題を探るものであり、行政組織だけでなく、企業・公益団体など会計監査を必要とする組織において、参考となる知見が期待できる。
- 歴史学の成果を応用することによって、社会・政治に対する意識や批評能力を高めるとともに、より適切で信頼できる社会システムの構築に向けた考察を行う手がかりをもたらす可能性をもつ。

知的財産・論文・学会発表など

- 小山俊樹「近代日本の謀略と機密費」（『中央公論』2021 年 12 月）
- 小山俊樹「『平民宰相』原敬と機密費」（『日本歴史』857 号、2019 年）
- 小山俊樹「満州事変期における外交機密費史料の検討」（『情報史研究』4 号、2012 年 5 月）
- 小山俊樹（監修・編集・解説）『近代機密費史料集成Ⅰ　外交機密費編』（ゆまに書房、2014-15 年、全 6 巻＋別巻）『近代機密費史料集成Ⅱ　内閣機密費編』（ゆまに書房、2021 年、全 3 巻）など

遊牧民の移動からみた古代ユーラシア史

文学部　史学科　講師
齊藤　茂雄　SAITO, Shigeo
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.f749840ed9cb965a.html

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：東洋史学、内陸アジア、遊牧民、唐

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

私はこれまで、歴史上の国際関係において発生した移民・難民の動きと、移動において発生した歴史上の影響について研究してきました。ここまではよくあるテーマですが、私の研究の特異性は、それを７−９世紀という古代ユーラシアを舞台とし、遊牧民という移動生活を常とする人々を対象に行っていることです。遊牧民は難民といえど気を抜けず、1人１人が高度な騎馬軍事技術を持った熟練の戦士たちでした。そのため、移民・難民を受け入れる側であった中国の唐は、軍事反乱の危険性がある一方で傭兵にできれば強力な遊牧民たちを、十分優遇しつつ軍事利用をしていました。遊牧民の人々も優遇されることを承知の上で、唐と故郷を行き来するような生活を送っていました。この時代の移民・難民は強かで必ずしも悲劇の存在とは言い切れないのです。ステレオタイプには捉えきれない歴史のリアルがそこにはあります。

モンゴル高原の草原

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

現在では「移民・難民＝不幸」が常識のように語られますが、はるかな過去の世界ではそうとは言い切れなかったこともありました。過去の世界には、現代の常識を簡単にひっくり返すような事例がごろごろあります。ゲームチェンジャーとなるような新たな常識は、案外過去の世界から見出せるのかもしれません。

知的財産・論文・学会発表など

・齊藤茂雄　2016：「古代トルコ系遊牧民の広域秩序」『アステイオン』84, pp. 99-114.
・齊藤茂雄　2022：「突厥第二可汗国の遺民集団と安史の乱──ウイグルの「援軍」派遣をめぐって──」『東洋史研究』81-3, pp. 65-99.
・齊藤茂雄　2023：「タラス河畔の戦いと碎葉──唐の出兵目的をめぐって──」『東洋学報』105-2, pp. 31-64.

日本中世の皇位継承と政治構造

文学部　史学科　准教授
佐伯　智広　SAEKI, Tomohiro
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.7e210834ab1e6767.html

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：日本中世政治史、皇位継承、院政

SDGs 目標 5：ジェンダー平等を実現しよう

研究の概要

中世日本における皇位継承の実態・特質について分析し、それに規定された中世日本の政治構造を明らかにすることを目指している。

中世日本で行われた院政とは、「幼少の天皇に代わって、天皇の直系尊属である院（退位した天皇）が政治を行う」という制度であった。直系尊属とは、父・祖父・曽祖父など、自分より前の世代で自身と直接血がつながっている親族のことである。

逆にいえば、院であれば誰でも院政が行えたわけではない。院政を行うためには、天皇が幼少であること、天皇が直系の子孫（子・孫・曽孫）であることであること、という二つの条件が必要があった。

この条件を満たし、院政を行った院こそ、当時の天皇家における家長であった。院は、家長として、幼少の天皇に代わって政務を代行するだけでなく、天皇の婚姻や皇位継承者までも決定した。

ところが、天皇が成人し、自らの政治的意思を行使するようになると、必然的に、院の政治的意思が妨げられる事態も生じてくる。天皇の成人後も、院が院政を安定して行うためには、成人天皇を退位させ、幼少の天皇を新たに立てることが必要となる。

また、将来の院政の権利が保障されるためには、自身の男子に皇位を継承させる必要がある。こうして男子直系継承が追求された結果、男子直系継承が一般化し、男子直系継承によって形成された天皇の血統は、「皇統」と称されることとなった。

このように、院政期には、天皇の死去による皇位継承に加え、成人天皇の譲位による皇位継承がしばしば行われ、皇位継承問題にともなう政変や戦乱も多発した。こうした政治構造が政治過程に及ぼした具体的な影響を明らかにすることが、今後の課題である。

［日本中世前期の皇統］（佐伯二〇一五）

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

現代の天皇制における、「現天皇の男子が皇位を継承する」という男子直系継承の仕組みは、12 世紀初めに院政という政治制度が成立したことにともなって確立した。その根底にあったのは、この時代に成立した、男系で代々継承される「家」という社会的な枠組みである。この「家」という枠組みもまた、「結婚に際して男性の姓が選択される」といった点で、現代日本に大きな影響を与えている。中世の皇位継承や、院政という政治形態について分析することは、こうした現代社会の問題の淵源を探る営みでもあり、そこから得られた結論は、現代の天皇制や家族制度といった今日的課題について考えるための材料となりえるものである。

知的財産・論文・学会発表など

著　　書　単著『皇位継承の中世史　血統をめぐる政治と内乱』（吉川弘文館、2019 年 4 月）
著　　書　単著『中世前期の政治構造と王家』（東京大学出版会、2015 年 3 月）
学術論文　単著「中世前期の王家と女性」（『日本中世の政治と制度』吉川弘文館、2020 年 11 月）

中国近代・東北アジア史における張作霖

文学部　史学科　教授
澁谷　由里　SHIBUTANI, Yuri
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.0eb4ba960e85be84.html

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：中国近代史、東北アジア史、張作霖

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

1928 年の爆殺事件で有名な、張作霖（ちょうさくりん）（1875-1928 年）について主に研究しています。一介の馬賊から、国家元首同様の地位（中華民国安国軍大元帥）にまでのぼりつめたその人生には、中国と日本はもちろん、ロシアや朝鮮半島、モンゴル等の歴史が深くかかわっているので、現在の多国間外交や地域政治のケーススタディとしても有益な研究対象です。

昨今は、1910 年代末から 1920 年代前半期にかけての、孫文と張作霖との関係を通じて、敵対者同士が和解にふみだす動機や条件、そのプロセスについて、双方の関係人物や利害関係国（日本、ソ連、アメリカ）との関係も含めて追究しています。またこの問題を読みどころの 1 つとした、張作霖の伝記を執筆中です。完成すれば戦後初の、張作霖についての日本語による本格的な伝記となるでしょう。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

中国近現代史や日中関係史を題材とした小説の、歴史考証を長らく手掛けてきました。浅田次郎氏の『中原の虹』・『マンチュリアン・リポート』・『天子蒙塵（もうじん）』・『兵諫（へいかん）』（以上、講談社）、小川哲氏の『地図と拳（こぶし）』（集英社、第 168 回直木賞受賞）を担当しました。ドラマ・映画の脚本チェック、作家育成、マスメディアの記事作成等ができると思います。

知的財産・論文・学会発表など

著書： 澁谷由里『馬賊の「満洲」－張作霖と近代中国－』講談社学術文庫、2017 年
（中国語：賴庭筠訳『馬賊的満洲』光現出版＜台北＞、2018 年）
澁谷由里『＜軍＞の中国史』講談社現代新書、2017 年

論文： 澁谷由里「孫文と張作霖－民国再統一に向けての提携を中心に－」『東洋史研究』78 巻 3 号、2019 年

中国古代における「統一」を再考する

文学部　史学科　准教授
楯身　智志　TATEMI, Satoshi
URL：https://researchmap.jp/tatemi

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：中国史、秦漢史、政治史、支配、権力、国家構造、史料批判

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

中国史上最初に中国本土（China proper）を「統一」した秦・漢両王朝の政治史を研究しています。秦の始皇帝は中国本土を初めて統一し、文字・貨幣・度量衡・道幅など、すべての物事を秦の制度に統一しました。さらに万里の長城を修築し、中国本土と遊牧民の居住地帯を視覚的に区別しました。これにより、中国は初めて一つの文化圏として統一されたと言われています。

しかし、秦はその統一をわずか 15 年間しか維持することができませんでした。一般的に、それは秦の暴政によるものと考えられています。ところが最近の研究では、秦の統一はあくまで表面的なものに過ぎず、中国各地の地域性は維持され続けたと言われています。秦滅亡後に勃発した楚漢戦争は、項羽と劉邦という 2 人のライバルが争った戦乱とされていますが、実際には 2 人が各地に割拠していた地方政権の支持を奪い合った戦いです。ゆえに項羽に打ち勝った劉邦は中国を東西に区分し、東部に割拠する独立勢力の利害を調整することで、かろうじて「統一」をもたらしたのです。これが、以後約 400 年続いた漢王朝の実態であったと考えます。

私は漢王朝の上層部が繰り広げた政治闘争の展開を分析することによって、以上のような「中国統一王朝」の実態を探っています。「前近代中国は皇帝支配の時代だ」と言われますが、それは必ずしも「中国は皇帝によって統一されている状態こそデフォルトだ」ということと同義ではありません。地域性・多様性を許容・黙認する皇帝支配の実態を解明することで、「統一された中国」というイメージを相対化していきたいと考えています。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

中国本土の多様性を歴史的に解明することによって、これまで知られていなかった中国文化の魅力を発掘します。特に、近年相次いで発見されている中国古代の墓葬や出土文字資料に着目し、中国の統一性と地域性の相克のありさまを実態的に明らかにします。これにより、いわゆる「少数民族問題」を平和的に解決する糸口を模索したいと考えています。また研究・教育活動を通じ、われわれ日本人が中国という地域や文化に対して抱く偏見を排除し、日中両国が生産的な友好関係を築く一助になればと願っています。

知的財産・論文・学会発表など

・楯身智志『前漢国家構造の研究』（早稲田大学出版部、2016 年）
・楯身智志「前漢諸侯王墓よりみた王国支配の実態―満城漢墓と中山靖王劉勝」（『東洋史研究』第 76 巻第 3 号、2017 年）
・楯身智志「前漢楚王国の虚像と実像―『史記』楚元王世家と『漢書』楚元王伝の比較を通じて」（工藤元男先生退休記念論集編集委員会『中国古代の法・政・俗』汲古書院、2019 年）
・楯身智志「前漢における戍卒の徴発と「名縣爵里」―爵制の存在意義をめぐって」（『史学雑誌』第 133 編第 3 号、2024 年）

モンゴルからのアジア近現代史

文学部　史学科　准教授
田中　剛　TANAKA, Tsuyoshi
URL：https://researchmap.jp/tanakatsuyoshi

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：モンゴル、中国、台湾、アジア近現代史、多文化

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

近代中国における周縁地域の変容を、内モンゴル地域に焦点をあてて研究を行っている。また最近では、日中戦争期から中華人民共和国成立前後にかけて内モンゴルから日本や台湾へ渡ったモンゴル人たちの歴史にも研究対象を広げている。彼らは日本の占領政策によって派遣された留学生であったり、日中戦争終結後に始まった国共内戦を避けて台湾へ渡った人々である。彼らはどのようにして海を渡り、そこでどのような社会をつくり、現地社会との関係をどのようにして築いていったのか。このような課題を明らかにするため、国内外の公文書や歴史的資料を蒐集し、当事者への聞き取りも行って分析を進めている。

●写真（上）
「盛岡に疎開したモンゴル人留学生たち」（1945 年夏）
日本各地で学んでいたモンゴル人学生たちは第二次大戦末期になると、盛岡高等農林学校や岩手師範学校に疎開して日本敗戦を迎える。

●写真（下）
「台湾のチンギス・ハーン大祭」（2016 年撮影）
毎年台湾では旧暦 3 月 21 日に政府主催でチンギス・ハーンを顕彰するセレモニーが執り行われ、台湾在住のモンゴル人たちが集う。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- 日中戦争期のモンゴル人留学生のなかには、戦後も日本に残った人たちが少なくなかった。なかには華僑活動に参加した人たちもいた。彼らの歴史を理解することは、多文化共生社会の実現をめざす日本にとって考える手がかりとなり得る。
- 台湾は多文化主義に対する関心が高いことで知られている。これを法的に支えているは 1946 年制定の「中華民国憲法」であり、「辺疆地区の各民族」（モンゴル人、チベット人、ウイグル人など）に対する保障や扶助を謳った条文が基礎となっている。台湾社会とモンゴル人との関係を検討することによって、台湾多文化主義の来歴を理解することができる。

知的財産・論文・学会発表など

- 田中剛「日本敗戦前後の中国人留日学生政策－汪精衛政権・「満洲国」・「蒙疆政権」」（森時彦編『長江流域社会の歴史景観』京都大学人文科学研究所、2013 年）
- 田中剛「「蒙疆政権」留学生の戦後－東北・北海道を中心に 」（大里浩秋、孫安石編著『近現代中国人日本留学生の諸相－「管理」と「交流」を中心に』御茶の水書房、2015 年）

歴史気候学

文学部　史学科　准教授
平野　淳平　HIRANO, Junpei
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.41db0909567b3b0c.html

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：自然地理学、気候変動、歴史気候学、気候災害

SDGs 目標 13：気候変動に具体的な対策を

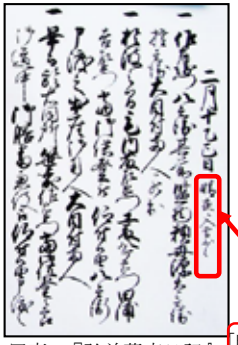
研究の概要

地球規模の 気候変動には、温室効果ガス排出に起因する人為的要因による変動と、太陽活動の変化、火山噴火などの自然的要因によって生じる変動がある。

人為的要因による変動については、気候モデルによる温暖化予測を中心に、数多くの研究がある。 しかし、自然的要因による変動については、その実態は十分に解明されていない。自然的要因による変動について理解するためには、人為的要因を無視できる 19 世紀以前の気候変動に関する実証的研究が求められる。しかし、日本では気象庁の公式気象観測資料が得られる期間は明治初期以降、過去約 150 年間程度に過ぎない。

公式な気象観測開始以前（歴史時代）の気候変動を復元するために、江戸時代の日記を中心とする歴史資料にもとづく気候変動の研究を行っている。

降雪率（降雪日数 / 降水日数）は、寒冬（暖冬）年ほど高い（低い）ので、冬・春季の寒さの指標となる。青森県弘前市の『弘前藩庁日記』（1645 ～ 1864）、山形県川西町の庄屋の日記である『竹田源右衛門日記』（1831 ～ 1980）、および山形地方気象台の気象観測資料（1962 ～ 2005）をもとに、17 世紀後半以降の冬春季（2 ～ 4 月）の降雪率の変化（図 1）を調べると、江戸時代の飢饉発生期である 1780 年代（天明期）や 1830 年代（天保期）は冬春であっただけでなく、晩冬季から早春が寒冷であったことが分かる。また、1950 年代以降に、降雪率が急減しており、地球温暖化と関連している可能性もある。現在、日記から復元したこのような結果を樹木年輪や湖の結氷・解氷記録など、他の気候代替データと比較する研究も進めている。



「晴夜二入雪少し」

写真1『弘前藩庁日記』
弘前市立図書館所蔵

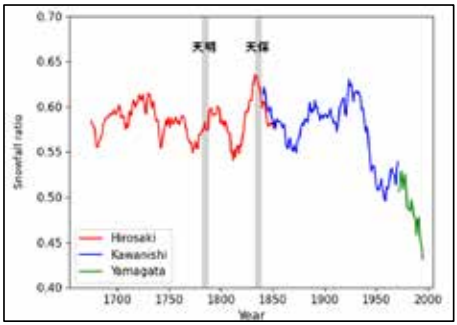


図1　東北地方日本海側地域における17世紀後半以降の降雪率変動（21年移動平均値）
（平野ほか, 印刷中）

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本研究が実学や産業界に直ちに役立つことはない。しかし、「過去を理解し、将来に備えること」は広い視野を持って気候変動に適応できる社会をつくるために重要である。

知的財産・論文・学会発表など

平野淳平ほか：東北地方日本海側地域における 17 世紀後半の冬春季の降雪率変動．　地学雑誌（印刷中）

日本古代のチマタの多機能性

文学部　史学科　准教授
宮川　麻紀　MIYAKAWA, Maki
URL：https://researchmap.jp/makimiyakawa

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：チマタ、市、境界祭祀、流通経済

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

研究の概要

日本古代には各地に道と道との交差点であるチマタが形成されていた。チマタの「チ」は道（ミチ）の「チ」や市（イチ）の「チ」にも通じるといわれている。特に大和国には古くからチマタが形成され、市も立っていた（図参照）。

チマタは人や物が行き交う交差点であり、共同体同士の接点であるとともに、異世界との境界とも考えられていた。そのため、境界祭祀が行われることも多かった。なお、境界祭祀は「坂（境、堺）」でも行われ、日本各地に残る「御坂（神坂）」地名などはその名残である。

ヤマト王権は王宮や皇子女の宮の近くに形成されたチマタや市を様々な用途に利用していたことも分かっている。例えば海外使節を招いての外交儀礼や、刑罰の執行、行幸に用いる馬の披露などであり、時には戦場として使われることもあった。また、チマタでは相撲などのイベントも開催されることがあり、これは王権が主催したものでなく、自然発生的に行われたと考えられる。いずれにしても、チマタは多機能を有していたことがよく分かるのである。

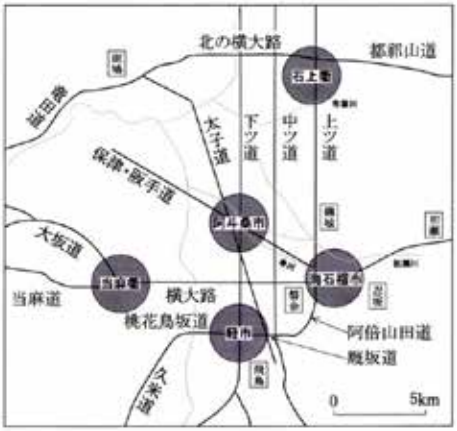


図　宮川麻紀『日本古代の交易と社会』吉川弘文館、2020 年より

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

現代でも商業施設では人や物が集まるという性格を活かして、様々なイベントが行われる。そうした空間の活用のあり方を考えるうえで、チマタの多機能性は参考になる部分もある。また、各地の地名や地形、伝承などからチマタや境界祭祀の場を見つけ出し、その歴史を考え発信することで、地域社会の活性化にもつなげていくことができる。

知的財産・論文・学会発表など

・宮川麻紀『日本古代の交易と社会』吉川弘文館、2020 年
・宮川麻紀「律令国家と「商人」」（佐藤信編『史料・史跡と古代社会』吉川弘文館、2018 年

江戸幕府の職制・幕藩関係の研究

文学部　史学科　教授
山本　英貴　YAMAMOTO, Hideki

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：政治史、法制史、史料学

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

① 江戸幕府は、数百を超える役職で構成される巨大な組織です。その組織のうち、大名や諸役人の政務について監察した大目付という役職を務めた人の日記（「井上日記」）から、幕府組織の全容解明を目指しています。
② 幕府が出した人事に関する法令と武士の日記などを組み合わせて分析し、江戸時代における役人の昇進ルートや、武士が幕府の役職に就職するための活動などを復元しています。
③ 各地を支配する大名たちが、自身の希望を実現するため幕府に願い出る際に、どのような人々を頼ったのか、またどのような根回しをしていたのか、交渉の実態について検討しています。

国立公文書館所蔵「井上日記」

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

日本史上、江戸幕府は最も長く続いた武家政権です。政権を長きにわたって維持できた理由として、幕府を構成する一つ一つの組織に適切な人材を配置していたことがあげられます。さらに、組織の長は数年で変わる一方、長を支える構成員は、組織で採用・出世してきた人を中心に、他の組織から人材交流の一環として派遣された人たちです。この組織の形態は、現在の省庁における大臣と大臣を支える官僚たちとの関係に似ています。

私の研究は、組織を運営していくうえで重要となる「人」について、どのような点を評価して起用していくのか、また「人」を活かすためのポストをどのように統廃合していくのか、それらを考える材料を提供することができます。

知的財産・論文・学会発表など

単著：『江戸幕府大目付の研究』（360 頁、吉川弘文館、2011 年）。
単著：『旗本御家人の就職事情』（224 頁、吉川弘文館、2015 年）。
共著：「「江戸幕府日記」－日記方の表右筆と日記掛」（福田千鶴・藤實久美子編『近世日記の世界』収録、ミネルヴァ書房、2022 年）。
共著：「「大御所時代」の幕藩関係」（荒木裕行・小野将編『日本近世史を見通す３』収録、吉川弘文館、2024 年）。
共著：「幕藩制の展開－近世後期の政治史を考える」（上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美編『日本近世史入門』収録、勉誠社、2024 年）。
論文：「文化期長府藩毛利家の家格上昇運動－萩藩毛利家との関係に着目して－」（『日本歴史』第 921 号、2025 年）。

オセアニア地域文化学専門

外国語学部　外国語学科　講師
アランダテイシェイラ　デイビッドフランシスコ
ARANDA TEIXEIRA, David Francisco
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.53f9f4592efc2fc6.html

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：地域研究、日本・オセアニア比較、文化、社会、テクノロジー

研究の概要

SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGs 目標 17：パートナーシップで SDGs 目標を達成しよう

オセアニア地域に学ぶ持続可能な発展と文化的多様性

オセアニア地域は、独自の歴史、生物多様性、そして発展を持つ複雑で多面的な地域です。この地域は、比較的最近、近代開発が進んだ歴史を持ち、ユニークな背景を有しています。また、多くの動植物が生息し、水域面積が最も広い大陸として、他の地域よりも地球環境問題に直接的に取り組んでいます。この地域は、近い将来が直面する多くの課題に対処するために、注目すべき一歩を踏み出してきました。しかし、このことはもっと綿密に研究されるべきであるにもかかわらず、学界ではあまり広く研究されていません。この地域の社会、技術、伝統に対する新しいアプローチは、他の地域に多くの示唆を与える可能性を秘めています。さらに、オセアニア地域の多文化的な性質は、地域内での人の移動や文化的な交易が盛んであり、特にアジアや南米にまでその範囲を広げている点も、綿密な研究に値します。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

オセアニア地域の多くの国々、特にニュージーランドとオーストラリアでは、テクノロジーの革新的な利用や、都市計画や建設における新しいアプローチを通じて、多くの問題の解決に取り組んでいます。中にはオセアニア特有の環境でしか適用できないものもありますが、大半は世界中の産業や市場にとって、特に仮想現実（VR）、拡張現実（AR）と環境・グリーンテクノロジー、の展開と利用は大きな可能性を秘めたものです。

知的財産・論文・学会発表など

- 『夢中にさせる学習：教室における AR と VR の刺激』（JALT 2024 学会発表）
- 『教育における拡張現実（AR）と複合現実（MR）：オーストラリアの視点から見た多様な教育環境の文献レビュー』（論文）
- 『ファシリテーションとユニバーサルデザインで創る授業』（共同著作）

第二言語習得における誤用の研究

外国語学部　外国語学科　准教授
李　恵正　LEE, Hyejeong
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.649c81a3acdb0d3a.html

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：第二言語習得、外国語教育、日本語コーパス

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

最近は第二言語習得時に起きる誤用の諸現象について研究をしている。中でも韓国語は日本語と文法構造が類似しているためお互い学びやすいとされているが、それでも誤用は様々起きる。両言語の習得時に起きる誤用の観察とその実証実験、得られた結果から考察した教育改善案の提案に重点を置いて研究を進めている。

最近取り組んでいる研究の一つは、日本語のアクセントの位置による意味変化に関するものである。日本語におけるアクセントとは「雨」と「飴」のような、社会的慣習として恣意的に決まっている相対的な高低の配置を指す。特に日本語のアクセントは語ごとに決まっているのに対し、韓国語ソウル京畿道方言では音の高低は語の意味に関与しないためアクセントがさほど重要な情報ではないことが知られている。そのため、韓国語母語話者の日本語学習者には日本語の意味を判別するのに重要な情報であるアクセントの区別に関する誤用が学習レベルが上がっても生じ続けていると言える。そこで、日本語の超上級レベルの韓国語母語話者を対象に日本語アクセントの弁別能力における誤用を調査し、その結果から日本語教育におけるアクセント教育の重要性を強調することを目的とした研究を主に行っている。

「スイカ」と「すいか」: 音の高低で単語の意味に変化が生じない母語を持つ学習者は文脈なしでは理解しづらい。

実験ソフト PsychoPy を使用して聞き取り正誤判断テストを作成し、上級と超上級日本語学習者を対象に正誤判断テストを実施した。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

世界の日本語教育の需要を充足させるため日本の文部科学省は登録日本語教員の制度をスタートさせた。認定日本語教育機関の教員となるためには、登録日本語教員の資格を取得することが必要で登録日本語教員の資格を取得するために、年齢、学歴、国籍等の条件、資格の有効期限もなしにした。これは世界の日本語教育の現場で働く数多くのノンネイティブ日本語教員への教育力量強化が重要な課題となることが示唆できるものである。私の研究は日本語教育現場での学習者への実践、日本語教師養成の指導の場でも活用できる研究である。

参照 URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/nihongo_kyoiku/mext_02668.html

知的財産・論文・学会発表など

- 「超上級日本語学習者の日本語アクセントの弁別能力について」2024 年 4 月 20 日、國立昌原大學校、第 12 回韓国日本研究総連合会及び第 71 回大韓日語日文学会春季国際学術大会。
- 「非漢字系日本語学習者の漢字習得困難を来す要因について」2021 年 8 月 11 日（水）、2021 年度第 9 回 CASTEL/J（日本語教育支援システム研究会）など。

「世界美術史」への挑戦

外国語学部　外国語学科　准教授
鵜飼　敦子　UKAI, Atsuko
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.87cf6fc5c2fc8948.html

人文科学
八王子キャンパス

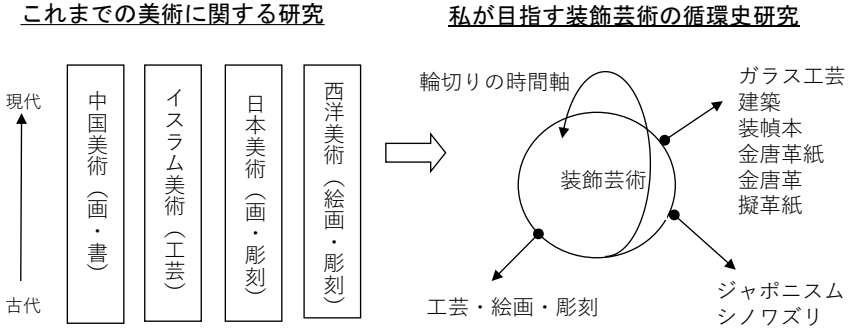
キーワード：装飾芸術、工芸、ジャポニスム、グローバル・ヒストリー

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

これまで美術史は、「国」や「国民国家」、宗教、想像上の地理的区分などに分けられ、その区分同士の影響関係や時系列に沿った展開などが論じられてきました。しかしそれは、人種や文化の違いを強調するものでしかありませんでした。私の研究では、ある時代を輪切りというかたちで取り上げ、従来の問題を乗り越えた具体的かつ新たな美術史像を描くことを試みています。

いつの時代も、どの場所でも、人は身の回りのものを「飾りたい」という願望がありました。芸術至上主義によって生みだされた作品のみでなく、生活に根差した「工芸」に注目して、新たな歴史叙述の可能性を探っています。そうすることで、宗教や民族、人間集団といった既存の歴史叙述の前提となっていた枠組みを問い直すきっかけが生まれ、我々は皆、同じ地球という場に帰属しているという意識を高められると考えています。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

全国各地の日本の伝統工芸を現代に生かすプロジェクト（漆器のオブジェを公共施設に設置する、伝統地や織物をホテル内装として提案する、着物を若者向けに制作するなど）にも携わっています。

2004 年は 19 世紀フランスのガラス工芸家、エミール・ガレ没後 120 年ですので、日本美術との関係や万国博覧会との関りについての講演などもおこなっています。また、美術展覧会の企画もおこなっており、西アフリカの仮面展やフランスのガラス工芸の展覧会なども監修しております。

知的財産・論文・学会発表など

・『没後 120 年エミール・ガレー美しきガラスの世界』imura art + books，131 頁，2024 年.
・羽田正監修『輪切りで見えるパノラマ世界史 第 4 巻―大きく動きだす世界』大月書店，39 頁，2015 年.
・「高島北海の日本再発見――フランスがもたらしたもの」宇佐美斉編『日仏交感の近代』京都大学学術出版会，225-244 頁，2006 年.

女性の表象

外国語学部　外国語学科　教授
大野　雅子　ONO, Masako
URL：https://researchmap.jp/read0030670/

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：英文学、日本文学、映画、物語、女性、食、母、愛、髪、紅茶

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 5：ジェンダー平等を実現しよう

研究の概要

「母恋い」三部作（(PHP エディターズ・グループ、2021 ～ 2023 年）の一作目は『母恋い』

- 「お弁当」が母親を苦しめる
- 「家庭料理」という概念は明治期に構築された
- 「ちゃぶ台」はひっくり返される
- 村上春樹は昔のガールフレンドを忘れられない
- 東野圭吾の『白夜』は「母恋い」の物語

様々な切り口から、日本文化・文学における「母性」を考察しました。

「母恋い」三部作の三作目は『おふくろの味』

- 男性は「おふくろの味」という郷愁の物語を創りだし、女性もその物語に加担する
- パンとご飯の二項対立関係
- とんかつは庶民的、ビフテキは高級
- 1960 年代、サラダを食べる男は、かっこいいと思われた

日本文化における「食」の記号性を、様々な角度からを論じました。

「母恋い」三部作の二作目は『母なる海』

- ヒロインの聡子は、「海にならなくてはならぬ」と思った
- このメタファーは、メタファーを超えたメタファーである
- 聡子は清顕と現実世界を超えた場所で、「母なる愛」で清顕を包み込んだ
- 聡子は海そのものになった

三島研究における新しい視点です。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

学生が社会に出たとき文学が何の役に立つのか、という問いは常に私の心にあり、文学を教えることの罪深さのようなものを感じ続けた教員生活でした。文学によって形成されるイマジネーションの世界なくして人はどうやって人生を生きるのでしょう。思考力、共感力、想像力は、文学によって形成されるのですから、学生には、もっと文学に触れてほしいです。

知的財産・論文・学会発表など

- 「角田光代の『八日目の蝉』－愛着対象を求める旅と、母による娘の支配」（2024 年）
- 「『ドライブ・マイ・カー』の映画と原作－「海を渡る風」と「北海道上十二滝村」は映画に何をもたらしたか」（2023 年）
- 「平野啓一郎『ある男』における語りの枠組みとそのなかを「退行」する「ある男」－「なりすまし」の「プレ・テクスト」としての松本清張『砂の器』と比較して」（2023 年）
- 「『千と千尋の神隠し』における異郷－『不思議の国のアリス』と『ナルニア国物語』と比較して」（2022 年）
- 「「なりすまし」にはかなり無理がある－東野圭吾の『白夜行』と『幻夜』において、テクストの空白を埋めるものは何か」（2021 年）
- 「「時をかける少女」－ 英語と日本語、時間と空間、過去と未来の狭間で」（2020 年）

間からの声―「翻訳」作品研究

外国語学部　外国語学科　ドイツ語コース　准教授
齋藤　由美子　SAITO, Yumiko
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.748cc1ce80a02093.html

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：ドイツ語文学、翻訳論

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

多和田葉子
日本経済新聞
(2020.11.2)

本研究の目的は、翻訳分析を通して通常は認識することが困難な言語や文化の性質を可視化することにある。

近年、ますます多くの作家が母語以外の言語で執筆したり、自身の作品を翻訳したりする傾向にあり、例外的な事象であるにすぎないとされていた自作翻訳の研究も飛躍的に発展している。こうした背景において国内外で特に注目されているのが、日独のバイリンガル作家、多和田葉子である。自作をドイツ語や日本語へ「翻訳」するだけではなく、作品全体において創作と翻訳が絡み合っている稀有な作家である。本研究では、ドイツの批評家ヴァルター・ベンヤミンの翻訳論・言語哲学と関連づけながら、多和田の作品を翻訳の詩学の観点から分析している。

Paul Celan in 1963. Photo: Lütfi Özkök

また、研究領域を拡げるために新たに分析対象として加えたのが、20 世紀を代表する詩人パウル・ツェランの「翻訳」作品である。ツェランはドイツ系ユダヤ人で戦後はパリに住みながら、最愛の母から受け継いだ「母語」であると同時に、その母を殺した「殺人者の言語」であるドイツ語で詩を書き続けた。生涯にわたってかなりの時間と労力を詩の翻訳に捧げ、現代においてほとんど比肩しうるもののない言葉の仕事をしたと評される卓越した多言語翻訳者でもある。英仏露など様々な言語の詩をドイツ語へ翻訳し、創作に劣らぬ作品として自身の翻訳をみなしていた。本研究は、ツェランがフランス語からドイツ語へ訳した詩を分析し、その成果を基に翻訳をめぐる言説について考察している。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

難民や環境破壊など、地球規模で議論されなければならない問題の解決が急がれるなか、国や言語の境界を越えて活躍している作家が注目されている。自身にとって異質なものに出会う経験をもとに、既存の文化や言語をラディカルに問い直している作家たちの作品は、グローバル化とともに世界各地で再燃するナショナリズムを批判的に考察し、他者理解のあり方を探るためにも示唆を与えてくれるだろう。本研究によって、ヨーロッパ文明から翻訳を通して多大な影響を受けた日本社会を、改めて探究するきっかけも得ることができるはずだ。

知的財産・論文・学会発表など

- *Die Sprachbewegung in Übersetzungen am Beispiel von Yoko Tawadas Texten,* Tübingen (Stauffenburg) 2022.
- „Theoretische Betrachtungen zu Yoko Tawadas Übersetzungspraktiken und der Rolle der Übersetzungsforschung“, in: *Neue Beiträge zur Germanistik. Internationale Ausgabe. Nr. 161,* Japanische Gesellschaft für Germanistik, S. 82-101, 2021.
- 「パウル・ツェランの翻訳『若きパルク』分析」日本独文学会秋季研究発表会、オンライン、2021 年 10 月。

我々は世界をどのように捉えるのか
ー日韓ヴォイス形式からみた事象の捉え方ー

外国語学部　外国語学科　助教
鄭　宇鎭　JEONG, Woojin
URL：https://researchmap.jp/w_jeong

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：文法論、意味論、日韓対照、ヴォイス（態）、捉え方、認知文法

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

研究の概要

通言語的に受身を表す形式が、しばしば受身以外の複数の意味・機能も表すことがよく知られている。日韓両語においても例外ではなく、日本語のラレルと韓国語の -eci-（- 어지 -）は、「受身」用法をはじめそれぞれ「可能・自発・尊敬」の用法と「可能・非意図・主体変化」の用法を持つとされる。以上の意味・機能ラベルからすると日韓両語におけるヴォイス（voice）形式ラレルと -eci- は、少なくとも「受身・可能」という共通する用法を持つということが伺える。両形式の担う用法は次の図 1 のようにまとめられる。

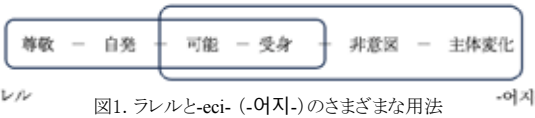


図1. ラレルと-eci-（-어지-）のさまざまな用法

しかし、このように比較に用いられる意味･機能ラベルは、一見すると明確に規定されたもののようであるが、個別言語の実情からすれば、かなりの程度大づかみなものであると言わざるを得ない。**本研究の観点から重要なのは、**個別言語の特定のヴォイス形式において各用法が構成される理由は何かという**個別言語における個々の使用例をいくつかの用法へとまとめ上げる仕組み**である。

その際、本研究では、同一の事象をさまざまに異なる仕方で把握する認知能力を想定し、**事象に対するさまざまに異なる捉え方（意味づけの仕方）も言語表現の表す意味の重要な一部であると考える認知言語学（とりわけ認知文法）の意味観**にもとづき、ラレル・-eci- に見られる複数の用法を、話し手が事象をどのように捉えるかという事象に対する捉え方の違いの現れとして捉え、それがどのようなものなのかを明らかにする。

日本語・韓国語（の母語話者）は、ラレル・-eci- を用いて事象に対する捉え方を表現しており、そういった事象をそれぞれ異なる仕方で捉えようとする（すなわち意味づけしようとする）動機づけこそが、ラレル・-eci- に複数の用法が存在する理由なのである。**ラレル・-eci- を動機づける認知のあり方（すなわち事象に対する捉え方）を探ることによってはじめて、単なる記述を超えて、なぜラレル･-eci- がそのような形で存在するのか（すなわち我々がラレル・-eci- を用いて世界をどのように捉えるのか）を説明することが可能**となる。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

私は、我々人間の持つ一般的な認知能力が言語能力と密接に結びついているという前提のもと言語形式の詳細な意味記述を行っています。その意味で、私の研究は、言語現象の分析を行うことで我々の持つ認知能力の一端を明らかにしようとするものとも言えます。このことから、本研究のタイトルでもある「我々は世界をどのように捉えるか」が研究課題となる**他の分野（認知心理学や認知科学）との親和性も高い**です。

また、この分析は、たとえば、準中級から上級までの学習者を対象とした類義表現（とりわけ自・他動詞の対応とヴォイス現象）の教育や、文法・読解・作文等の**教材作成に大いに役立ちます**。

知的財産・論文・学会発表など

- 私の研究は**日韓両語における対照分析を視野に入れた個別言語の詳細な意味記述**を行っているという点で特徴的です。
- 鄭宇鎭（2014a）『ヴォイス形式の多義とその認知的動機づけ－韓国語の -eci- 構文の場合』東京大学大学院 博士学位論文。
- 鄭宇鎭（2014b）「日本語（ラ）レテイル構文の意味－行為対象の変化の捉え方に注目して－」『日語日文學研究』130, pp.125-147. 韓國日語日文學會。
- 鄭宇鎭（2014c）「意味地図はヴォイス形式の対照分析に有効なのか－日韓両語の場合－」『日本語教育』109, pp.137-150. 韓國日本語教育學會。

近代朝鮮における学歴主義

外国語学部　外国語学科　教授
原　智弘　HARA, Tomohiro
URL：https://researchmap.jp/haratomohiro

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：近代朝鮮、学歴主義、管理任用制度、生活史

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

現代韓国を理解するために、必ず挙げられるキーワードのひとつが「学歴主義」である。この学歴主義が韓国の地でいかに誕生し、根付いていったのかを、歴史学的アプローチによって解明していくことを目指して研究を進めている。

現在は、学歴主義が成立した植民地期朝鮮の中で、朝鮮人学生がいかに学び、いかに生活をしていたのかという点に着目している。教育制度が完成してもその制度に参加する人々がいなければ学歴主義は浸透しない。学歴主義への参与度合い、あるいは浸透具合を確認するためには、児童生徒はもちろん、教員を含めた学校を取り巻く人々の生活を知ることは重要である。そのためには、公的機関が作成した資料はもちろんのこと、新聞雑誌などに加えて、学校と関わりを持っていた人々の日記や回顧録、さらには文学作品なども活用しながら、当時の風景を再構築していく。

写真：1930 年代朝鮮人学生の日記の一部

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

・現代韓国社会への理解を深めることにより、相互理解の基盤を作り上げていく。特に植民地期への評価は日韓の相互理解を深めていく上で避けて通れない問題である。

知的財産・論文・学会発表など

・「朝鮮における科挙制度廃止後の官吏任用制度」『帝京大学外国語学部外国語文学論集』25、2019
・「ある朝鮮人生徒の日常－日記資料（1930 年）を中心に－」
　須川英徳編著『韓国・朝鮮史への新たな視座－歴史・社会・言説』勉誠出版、2017
・「소년의 번민 청년의 고뇌－초기 한국근대교육의 한 측면－」
　（「少年の煩悶　青年の苦悩－初期韓国近代教育の一側面」）
水原大学校・旭川大学・帝京大学　日韓国際シンポジウム（於：韓国　水原大学校　2018 年 9 月 17 日）

ジャック・デリダの思想の総合的研究

外国語学部　外国語学科　講師
吉松　覚　YOSHIMATSU, Satoru
URL：https://researchmap.jp/s_yoshimatsu

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：哲学、思想史、脱構築

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

Jacques DERRIDA
(1930-2004)

20 世紀フランスの哲学者であるジャック・デリダの思想を、その思想形成から研究しています。デリダは「ポストモダン」の思想家としてその名を知られていますが、1990 年代からは倫理や政治について積極的に論じて、政治哲学にも大きな影響を与えました。

私もその観点から、倫理や政治についての思索を深めつつ、現代世界における倫理や民主主義のありようについて思考しています。

デリダが提唱した「脱構築」という思考法は近年、悪しき相対主義の源泉となったため廃さなければならないとして、フランスにおいても英語圏においても批判されています。しかし、デリダの書いたものを読んでみると、そのようなことは全くありません。「ポストモダン」な相対主義の思想家というイメージとは正反対の哲学者がそこにはいます。皆さんもこのデリダという特異な思想家について、さらに詳しく知ってみませんか？

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

デリダの提唱した思考法に「脱構築（Déconstruction）」というものがあります。脱構築によって、ビジネスとの関わりで言うなら、以下のことが可能になるでしょう。

- 既存の思考の枠組みを問い直すことができる。
- さまざまな決定について、その責任を考えることができる。

また、概要欄でも示したとおり、デリダは最晩年に法や政治、民主主義に関連する著作を立て続けに著しました。これらの著作群は法哲学や政治哲学、政治学にも少なからぬ影響を与えています。それゆえいわゆる「実学」に含まれる社会諸科学についても、その成立や根拠について批判的に問い直すことができるでしょう。根拠を問い直すということは現状を是認することなく、新たな価値を創出することにもつながるでしょう。

知的財産・論文・学会発表など

- 『生の力を別の仕方で思考すること』（単著、法政大学出版局、2021 年）
- 『25 年後の東浩紀　『存在論的、郵便的』から『訂正可能性の哲学』へ』（共著、読書人新書、2024 年）
- 「脱構築と生物学の「新たな」出合い直しに向けて」（岩波書店『思想』2024 年 11 月号）
- 「可傷的なものと可塑性」（『メルロ＝ポンティ研究』第 26 号、2021 年）
- 「フロイトの読者、デリダにおける時間、生、リズム」（『関西フランス語フランス文学』第 25 号、2019 年）

イギリス・ロマン派詩人シェリーの「感性の詩学」とモダニティをめぐる研究

教育学部　教育文化学科　教授
木谷　厳　KITANI, Itsuki
URL：https://researchmap.jp/itsuki-kitani

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：英詩、P. B. シェリー、長いロマン主義、モダニティ、文学理論

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

1. イギリス文学の領域において　従来の文学史的な時代区分である「感受性の時代（Age of Sensibility）」、ロマン主義からラファエル前派、唯美主義、ジョージ朝詩人、そして黎明期のモダニズムの時代までを「長いロマン主義」（およそ 1750 ～ 1920 年頃を想定）として捉え直した場合、ロマン派詩人 P. B. シェリーの「感性の詩学（Poetics of Sensibility）」がその中でいかなる役割を果たしうるかについて、シェリーの詩的特徴ともいえる「天上のヴィーナス（Venus Urania）」等の具体的なイメージ（形象）や概念を再解釈することを通じて、その文学史的意義や功績を探る研究を現在進めています。

2. 上記のような「長いロマン主義」時代においてシェリーの感性の詩学がもたらした影響 ―とくにヴィクトリア朝およびジョージ朝詩人に対して― を探る一方で、この新たな時代区分と不可分の関係にあると考えられるシェリーを含む「ロマン主義のモダニティ」という概念について、現代の文学理論または批評理論を参照しつつ新たな解釈や理解を提示することもまた、現在の研究目標のひとつです。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

「文学研究」という言葉には、どこか実学とかけ離れた、いわば「浮世離れ」したイメージを持たれがちです。しかし、実態としては、21 世紀の社会における主要な問題の多くが、すでに前世紀から文学研究の領域において詳細に論じられてきました。たとえば、フェミニズム、ジェンダー、セクシュアリティ（LGBTQ、クィア）、人種、ポストコロニアリズム、動物の権利や自然の保護（エコ）といった、現在の「SDGs」の土台となるキーワードが世に広められ（“popularized” され）た経緯には、英米文学研究と現代思想の交差する文学理論や批評理論果たした役割も少なくありません。クィア理論における「メイル・ホモソーシャル」（E. K. セジウィック）やポストコロニアリズムにおける「オリエンタリズム」（E. サイード）といった概念は、英米文学の学術的成果です。普遍的な人の営みを見つめながら社会におけるひずみや矛盾を描出してきた文学というジャンルを対象にするからこそ、文学研究は現代においてたえず公平な社会の実現に向けて様々な視点や論点をもたらす可能性を秘めた、きわめて同時代的な学問であるのです。

知的財産・論文・学会発表など

〈論文・著書〉
- 「ウィルフレッド・オーウェンの戦争詩にみるシェリーの遺産 ― 死のエクフラシスとロマン主義的モダニティ」『イギリス・ロマン派研究』第 48 巻、2024 年 3 月、51-68 頁。
- 「『ダーバヴィル家のテス』における「近代の痛み」と（ポスト）ロマン主義 ― シェリー的な愛を導きの糸として」『近代を編む ― 英文学のアプローチ』秋山嘉編著、中央大学出版部、2021 年、237-71 頁。
- 『文学理論をひらく』（編著）北樹出版、2014 年。

〈学術発表〉
- 「ある貴婦人批評家の肖像 ― Elizabeth Julia Hasell の “Elegies”（1875）に見るロマン主義のモダニティ」日本英文学会 第 96 回全国大会（東北大学川内北キャンパス）シンポジア 第 2 部門「長いロマン主義」とモダニティ 2024 年 5 月 4 日。

神祇祭祀にみる社会構造

教育学部　教育文化学科　教授
野口　剛　NOGUCHI, Takeshi
URL：https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=202301003851412996

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：神社、祭り、地域社会、歴史地理、リテラシー

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

日本列島における社会や国家はどういった人間関係の総和として成立してきているのかという問題関心の下に、特に古代の神社や祭祀のあり方を中心に研究している。日本の場合は飛鳥・奈良時代より現代にいたるまで連続的に文字による記録が残されている点で世界的にもたいへん珍しいのみならず、それが現代生活の中にも活きて機能しているという特徴も持っている。そして、そのことは今日のわれわれの日々の生活を歴史的・地理的な多様性の中おいて把握し、考えていけるという可能性を有している。今後、こうした研究の成果は広く社会に還元されて行かなければならず、われわれの日常的な生活環境を歴史地理的な観点から理解し、地域社会をよりよいものにするためのリテラシー能力の向上へとつなげるための方法を模索している。

現在、国宝に指定されている石清水八幡宮の社殿

令和度の大嘗宮をスマートフォンで撮影する人々

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

湯川秀樹氏が中国の古典『荘子』から中間子論の着想を得た話は有名であるが、Steve Jobs 氏も川瀬巴水の浮世絵版画を非常に愛好していた。今日、古典文学や歴史・絵画などの人文学的知識は営利に直結しないものと考えられがちであるが、実は人間の発想や感性といった認識活動の最も根底部分を支える基盤でもある。哲学・宗教や歴史・文化は人間の経験の集積であり、認識作用のデータベースとも言いうる。それらは直接的には観光資源などになるという効用性だけにとどまらず、より本質的には人材を育て、新しい発想を促す温床であるともいいうる。

知的財産・論文・学会発表など

単著　野口剛『古代貴族の結集原理』, 2016 年, 全 262 頁, 同成社。
共著　虎尾俊哉編『訳注日本史料　延喜式』上巻, 2000 年, 全 1139 頁, 集英社。
虎尾俊哉編『訳注日本史料　延喜式』下巻, 2017 年, 全 1482 頁, 集英社。
新古代史の会編『人物で学ぶ日本古代史』奈良時代編・平安時代編, 2023 年, 吉川弘文館。

戦後処理問題の史的研究

教育学部　教育文化学科　教授
浜井　和史　HAMAI, Kazufumi
URL：https://researchmap.jp/read0095366

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：戦後処理、戦後補償、遺骨収集、戦没者慰霊、戦争の記憶

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

1. アジア太平洋戦争（1937-1945）における日本人戦没者は約 310 万人で、そのうち沖縄や硫黄島を含む「海外戦没者」は約 240 万人とされる。これら海外戦没者の遺体・遺骨について戦後の日本政府は今日に至るまで遺骨収集事業を実施しているが、そのうち約半数の 112 万柱余りはなお現地に遺されたままである。
2. 本研究は、おもに外交史的アプローチを用いて、この問題に関する日本と諸外国との関係に着目しながら、政府の遺骨収集事業が戦後いかに実施されてきたのかを明らかにし、なぜ今日なお多くの遺骨が遺される状況に至ったのかについて検討することを目的とする。
3. 本研究により、戦後日本の戦後処理や戦争責任、戦争の記憶をめぐる問題に新たな視座をもたらすとともに、民俗学や宗教学、社会学等との学際的な研究成果を得ることが期待される。

1953年派遣の遺骨収集団により
サイパンに建立された
「戦没日本人之碑」

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

・戦没者の遺骨収集事業をめぐっては、2016 年 4 月に「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」が成立し、2024 年度まで（後に 2029 年度まで延長）が事業の「集中実施期間」に設定されたが、同法に基づいて設置された「戦没者の遺骨収集に関する有識者会議」の構成員として様々な提言を行なうなど、本研究で得られた知見を実際の事業に還元している。
・また、日本国内においてもほとんど知られていない遺骨収集や戦後処理の問題について、新聞やテレビ等のメディアを通じて、解説や問題提起を行なっている。

知的財産・論文・学会発表など

・著書：『戦没者遺骨収集と戦後日本』吉川弘文館、2021 年
・著書：『海外戦没者の戦後史―遺骨帰還と慰霊』吉川弘文館、2014 年

アイルランドの詩・演劇・バラッドに関する研究

福岡医療技術学部　作業療法学科　准教授
三木　菜緒美　MIKI, Naomi
URL：https://j-ballad.com

人文科学
福岡キャンパス

キーワード：アイルランド、詩、演劇、バラッド、英語教育

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

20 世紀まで主要なメディアであった印刷出版を通じて、「バラッド」というジャンルの歌が、教育や社会、政治、娯楽文化とどのように関わってきたかについて、特にアイルランドに焦点を当てて研究をしています。「バラッド」とは、中世以来ヨーロッパ各地で歌い継がれてきた物語歌のこと。歌い手は、民衆や吟遊詩人で、内容は民衆が関心を持った出来事が中心となっているため、いわゆる歴史書では語られることのない人々の生活や感情、事件、娯楽の情報で溢れています。

また、アイルランドはもともとゲール語文化の国でしたので、現在のようにほぼ英語圏と変わらない文化を形成するまでに、他のヨーロッパ諸国とは違う独特な過程を経て現在にいたっています。そしてバラッドは英語習得という教育面でも大切な役割を果たしていました。また、イギリスの植民地であった貧しい時代には、多くの移民がアメリカやカナダ、オーストラリアなどに渡り、その文化を伝播していきました。この移動による文化融合のダイナミズムは現代へと脈々と受け継がれています。

国際化する現代社会において、バラッド文化を分析検証することは、国際理解教育に繋がるとともに、現代の文化・教育・社会・メディアの相関関係を分析検証するのに重要な視点を提供してくれると考えています。

19世紀、ブロードサイド・バラッドと呼ばれる「印刷されたバラッド」を売り歩く女性の様子
（Jack B. Yeats, 'A Broadside', No.9. Cuala Press, Feb. 1910）

出典）Cuala Press Broadside Collection Digital Library @ Villanova University

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- 「日本バラッド協会」の運営委員として、日本及び世界各地のバラッド研究者及び愛好家たちとのネットワーク形成の機会の提供に努めています。翻訳活動においては、HP「英国バラッド詩アーカイブ」を運営し、18 世紀から 20 世紀にわたる 143 名の詩人のバラッド詩作品 748 編の日本語訳を製作中。現在は 189 篇の日本語訳を公開中。
- 英語教育においては、多読や音読・シャドウイング、パラグラフ・ライティング、プレゼンテーション・スキル、チャンク習得など、英語運用能力獲得のための様々なストラテジーを実践・指導しています。

知的財産・論文・学会発表など

〈翻　訳〉『英国バラッド詩アーカイブ（https://literaryballadarchive.com/）』にて 27 篇のバラッド詩の日本語訳を担当.
〈学会発表〉三木菜緒美：バラッド文化の芸術表現 --John Masefield と Jack B. Yeats, 日本バラッド協会第 14 回会合（Zoom）2023 年 3 月 25 日.
〈セミナー〉講師：三木菜緒美「ゲール文化から英語文化への移行の現状から日本を見てみる」, 第 2 回箱根セミナー（Zoom）, 2023 年 11 月 25 日.

自然言語の統語・形態と意味の関係

帝京大学短期大学　人間文化学科　講師
森田　千草　MORITA, Chigusa
URL：https://researchmap.jp/cmorita

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：言語学、比較言語学、統語論、形態論、日本語、英語

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

言語間の相違は表層的なものであり、すべての自然言語に普遍的な特性が存在することが観察されています。生成文法理論では、人間は言語に関して普遍的な知識を生得的に備えており、この知識によって短期間のうちに母語を獲得し運用することが可能となるという仮説に基づき、人間の言語知識を解明することを目指します。

現在、自然言語の形容詞の統語（文における語の配列）および形態（語の内部構造）と意味との関係についての研究を行っています。英語をはじめとする多くの言語では、名詞を修飾する形容詞の間には語順の制約があることが観察されています。これは、(1) のような意味概念に基づく階層が普遍的に存在し、形容詞は適切な解釈を受けるためにこの階層に従った語順で生起する必要があるからだとされています（Scott 2002）。

(1) subjective comment > ?evidential > size > length > height > speed > ?depth > width > weight > temperature > ?wetness > age > shape > color > nationality/origin > material

一方、日本語の形容詞は、この階層に従う必要がないことがほとんどです。これは、日本語の形容詞は、英語の関係節に相当するためと一般的に考えられています。しかし、日本語においても特定の意味概念を表す名詞修飾要素は、(1) の階層に従うことがあります。こうした名詞修飾要素はいわゆる形容詞や形容動詞ではなく、「名詞＋の」の形態を持つことが観察されています。つまり、日本語の場合、形容詞の意味概念が統語構造ではなく、形態に反映する場合があると言えます。自然言語において、意味概念は形態や統語にどのように組み込まれているのか、また形態や統語は適切な解釈とどのように結びついているのかを明らかにすることが、現在の研究課題です。

英語: a small white cat /
*a white small cat
(*は非文法的であることを示す)
日本語: 小さい白い猫 /
白い小さい猫

英語: small wooden houses /
*wooden small houses
日本語: 小さい木の家 /
*木の小さい家

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

学生が言語学を学ぶことにより、データの収集および分析の方法だけでなく、課題発見力や問題解決力、論理的思考などの基礎的・汎用的能力の涵養が見込まれます。また、言語学の知見を活かした英語教育を実践しています。母語以外の言語運用力の習得・向上のためには、その言語についての体系的理解が不可欠です。母語と英語の間の共通特性や相違を明らかにしたうえで、英語学習において注意すべき点を明示することにより、学生の英語運用力の基盤の形成に貢献できると考えています。

知的財産・論文・学会発表など

論　　文： 森田千草（2024）「日本語における叙述形容詞の項の統語的位置について」,『帝京大学短期大学紀要第 45 号』/ Kimura, H and C. Morita (2021) "Lexical Meanings of Ditransitive Verbs in Japanese," *Proceedings of the 35th PACLIC,* 520-528. / C. Morita (2013) "The Morphology and Interpretations of Gradable Adjectives in Japanese," *English Linguistics* 30 (1), 243-268.
学会発表： 森田千草（2024）「日本語の形容詞述語の項の統語的位置と格標示に関する一考察」, 日本言語学会第 168 回大会 . / Morita, C. and M. Obata (2019) Syntax and Semantics of Adjectives in Cape Verdean Creole: A View from Markedness, The 33rd Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation.

戦後時代小説の研究

宇都宮キャンパス　リベラルアーツセンター　准教授
牧野　悠　MAKINO, Yu
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.e02b8c1e6f9314af.html

人文科学
宇都宮キャンパス

キーワード：日本近現代文学、大衆文学、メディア研究

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

昭和 30 年代は、時代小説史上、最も広汎な読者を獲得した黄金期といえます。その原動力が、読書界を席巻した「剣豪小説」と「忍法小説」のブームです。「柳生武芸帳」の五味康祐 、「眠狂四郎無頼控」の柴田錬三郎、「くノ一忍法帖」の山田風太郎らが牽引した両ジャンルは、幅広い読者層を魅了する新奇性に満ちていました。これらの作家は、ともすれば俗悪小説の書き手として語られます。しかし、入念に作品を吟味すれば、戦後文学の問題を継承・発展させた豊かな思想性を読み取れるでしょう。

（『面白倶楽部』1958 年 12 月号）

（『オール讀物』1955 年 10 月号）

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

大衆文学ジャンルにおける情報の受容と加工に関する問題系および、作品と掲載メディアの関係性について、主に考察している。従来の日本近現代文学研究において、娯楽を目的とした作品は軽視され、代表的作品ですら研究の俎上に載せられることは希であった。したがって、昭和 30 ～ 40 年代にかけ、時代小説において絶大なブームをもたらした「剣豪小説」「忍法小説」ジャンルについての考察は、幅広く大衆に親しまれたエンターテインメントを対象とする学術的研究モデルの提示としても意味付けられるだろう。

知的財産・論文・学会発表など

論文：「五味康祐「喪神」から坂口安吾「女剣士」へ ── 剣豪小説黎明期の典拠と方法」（『日本近代文学』第 78 集、2008 年）
論文：「歴史をあざむく陰のわざ ── 柴田錬三郎と山田風太郎の忍法小説」（『昭和文学研究』第 76 集、2018 年）
共著：『大正史講義【文化篇】』（筒井清忠編、ちくま新書、2021 年）
共著：『昭和史講義【戦後文化篇】（上）』（筒井清忠編、ちくま新書、2022 年）
共著：『忍者学大全』（山田雄司編、東京大学出版会、2023 年）
共編著：『中間小説とは何だったのか　戦後の小説雑誌と読者から問う』（文学通信、2024 年）

現代日本語の副詞的修飾成分の習得

宇都宮キャンパス　リベラルアーツセンター　准教授
林　春　LIN, Chun
URL：https://researchmap.jp/rinshun

人文科学
宇都宮キャンパス

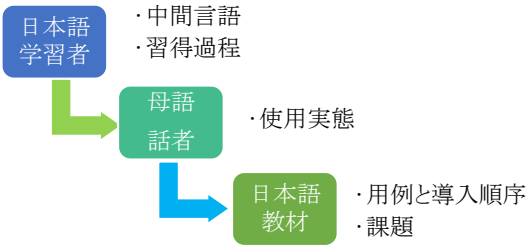
キーワード：副詞的修飾成分、中間言語、学習者、母語話者

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

研究の概要

日本語学習者は、日本語学習歴の長短を問わず、副詞的修飾成分に関する誤用が数多く見られており、この問題は日本語教育では重要な課題の一つだと言える。この課題を改善するために、下図で示されているように以下の三つの課題を明らかにする必要がある。

（1）異る母語話者の日本語学習者が産出した副詞的修飾成分の中間言語
（2）日本語母語話者が使用している副詞的修飾成分
（3）日本語教科書に使用されている副詞的修飾成分



以上を調査･分析し、日本語母語話者および日本語学習者の「副詞的修飾成分」の中間言語（誤用及び正用を含む）の使用実態を明らかにした。また、日本語学習者が使用している教科書における副詞的修飾成分に関する使用上の問題点及び課題を明らかにした。その後、日本語教科書における副詞的修飾成分の語彙・用例の選定・導入順序について検討した。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

日本語教育現場における日本語学習者をはじめとする副詞的修飾成分の学習問題およびその指導方法の改善につながるだろうと思う。さらに、第二言語としての日本語習得の実証研究にも貢献することが可能であろう。

知的財産・論文・学会発表など

論文
日本語学習者のテンス・アスペクトの習得：副詞と共起する「タ形」述語の中間言語について　帝京大学宇都宮キャンパス研究年報、人文編（29）217-227、2023 年 12 月

学会発表
コロケーションに注目した日本語学習者のテンス・アスペクトの習得 ―主節における「いつも」と「タ形」述語との共起を中心に― 第 32 回第二言語習得研究会、2021 年 12 月

アートを通じて真の知性とウェルビーイングを実現する

共通教育センター　講師
筒井　史緒　TSUTSUI, Fumio
URL：https://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/members/data/fumio_tsutsui/

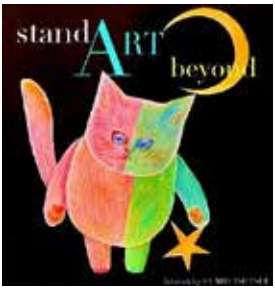
人文科学
八王子キャンパス

キーワード：ウェルビーイング、アート、直観知、変人、水曜どうでしょう

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

真のウェルビーイングのために、ほんものの知性を育む



筒井作画・デザインによる
ワークショップポスターデザイン

東大WSの様子

AI 時代・VUCA 時代といわれる現代。豊かで幸福な人と社会を創るために必要なほんものの知性を育て、知のパラダイムシフトを起こすことを目指しています。

いま、終わりなき経済成長と自然破壊の時代は限界を迎え、人が地球とともに持続可能な生を営むことが必要とされています。

ものも、からだも、こころも、くらしも満たされ、人も地球も同時に幸福に生きることができる。そんな、真のウェルビーイングをを模索できる、本質的で創造的な知性を育むための思索と実践を行っています。

活動例：東京大学 UTCP 研究員として、「幸福知のためのアート・ワークショップ・シリーズ standART beyond」を企画・主催。また、自身がアーティストとして絵や声の表現を行い、創造性や多様性、直観のもつ可能性を模索。また「水曜どうでしょう」から、現代社会の閉塞を断ち切り、誰もが自分らしく生きられる方法を考えている。「変人學会」発起人。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

AI 時代・VUCA 時代に必要なのは、直観や美的感覚といった、本来人間に備わる「最高で最善のアイデアを内発的に知る力」です。そうした、これからの世界を生きるために真に必要な力を育む講演・ワークショップ・プログラムなどの提供が開発をおこなうことができます。

知的財産・論文・学会発表など

・博士論文「ウィリアム・ジェイムズの思想 —— 経験と超過の狭間で」
・フラ・コンペティション「フラオニエ」古典部門団体優勝・現代部門団体 2 位
・声のパフォーマンスグループ「つむぎね」の一員として東京芸術劇場やサントリーホールなどに出演

現代日本語の文体に関わる連体節と連用節の計量的研究

高等教育開発センター　講師
蔡　薫婕　TSAI, Hsunchieh
URL：https://researchmap.jp/tsai

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：複文、連用修飾、当事者、文体、計量

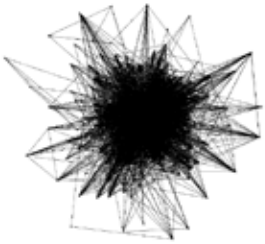
SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

① 現代日本語における連用修飾構造と複文構造の文法研究
② 当事者の語りの分析による障害の社会モデルに資する当事者研究
③ e-learning によるアカデミックライティングの学習効果の測定
④ 留学生を対象とした日本語教育方法の開発
⑤ 授業改善を目的とした SoTL 研究（Scholarship of Teaching and Learning）

「人間は言語と切り離して生きることができない」。これは言語分析がさまざまな事象に対して有効な理解手段であることを意味しています。私は現代日本語文法論の記述的研究を出発点として、日本語の分析を日本語教育、教育方法の開発、アカデミックライティング教育、当事者研究などに応用しています。現在、最も力を入れて取り組んでいるのは①と②です。

これまでの計量的言語研究では、語彙（word）の計量が主流でした。しかし、アノテーション方法の進展により、語彙より大きな単位である「節（clause）」の計量ができるようになりました。語彙の計量と節の計量を合わせることによって、文章構造をより正確に捉えられます。



語彙共起ネットワーク

文章は情報伝達を目的としている点から、文章構造を正確に捉えられれば、「留学生が書いた日本語の文章と日本語母語話者の文章がどう違うか」「依存症の当事者が注目する情報（話題）と情報の表現構造にはどのような特徴があるのか」「論文・エッセイなどの特定ジャンルの文体にはどのような相違点があるのか」といった点の一端を解明することができます。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

社会にはさまざまな生きづらさを抱えながら暮らしている当事者がいます。多元的共生社会を実現させるためには、当事者の声に示唆された社会づくり上の課題や、制度上の問題点などを一つ一つ乗り越えていく必要があります。本研究は、「私たち抜きに私たちのことを決めないで（Nothing about us without us）」という当事者主権（国際連合「障害者権利条約」）に基づき、当事者の語りの分析から分かった課題等を隣接分野と協働しながら解決につなげていきたいと考えています。

知的財産・論文・学会発表など

［論文］・蔡 薫婕（2024）「程度修飾・数量修飾と事象の終了との関与について」『日本語変異論の現在』ひつじ書房
・蔡 薫婕（2024）「留学生の新聞要約を用いた語彙調査」『帝京大学高等教育開発センターフォーラム』11
［発表］・蔡 薫婕（2024）「文章構造の分析に基づく文体と共感の研究」第 7 回 帝京大学 研究交流シンポジウム
［書籍］・蔡 薫婕（2019）『現代日本語文の程度修飾と数量修飾の体系』日中言語文化出版社

植物考古学で食文化史を描く

文化財研究所　助教
赤司　千恵　AKASHI, Chie
URL：https://teikyo-bunkazai.com/about_us/staff/chie_akashi

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：植物考古学、種実、食文化、キルギス中世、シルクロード

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

植物考古学というのは、遺跡から出てくる植物の遺体（種子、果実、材など）を分析し、当時食べられていたもの、栽培されていたもの、薬、燃料などを調べる、考古学の一分野です。得意とするのは、農耕のはじまり、栽培作物の伝播などの研究ですが、文献資料が豊富な歴史時代であっても、庶民の日常の食文化などは書かれていないので、食文化史を復元するのに植物遺体の分析は欠かせません。

例えばシルクロードを介した東西交流にかんする研究は多くありますが、交易路沿いの各都市で何が食べられていたのかが分かる文献資料は限られています。そこで、文化財研究所とキルギス共和国が共同発掘調査をおこなっている、中世交易都市アク・ベシム出土の植物種実を分析し、当時の食生活についての研究を進めています。

アク・ベシムの主な食用植物は、オオムギ、コムギ、アワ、キビなどの穀類、レンズマメ、エンドウなどマメ類、ブドウ、リンゴ、ニワトコなどの果樹類です（図 1）。しかし出土植物は、都市の中でも地点によって異なっているほか、時代によっても変化があるようです。カラハン朝以前と以後では、コムギが減ってアワが増加するなど、主食からして大きく異なっており、都市民と遊牧民との関係を反映しているのかもしれません。

今後は、4 種類出てくる穀類を、どうやって食べていたのかを復元するのが課題となります。アク・ベシムにはさまざまな文化集団が共生しており、集団によって、料理文化にも違いがあった可能性があるからです。

図1 アク・ベシム出土植物

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

ヒトが最初に栽培化した植物の中には、アインコルンコムギ、エンマーコムギなど「失われた作物」もありますが、最近ヨーロッパなどではこれらの植物の持つ価値が見直され、再び脚光を浴びるようになっています。日本にも、ヨモギを虫よけに使う、棕櫚でホウキを作るなど、昔ながらの植物との関わりの歴史があります。そのような植物利用史を植物考古学を通して知ることは、これからの食の在り方、自然との共生の在り方についての新しい視点を得ることに繋がります。

知的財産・論文・学会発表など

・中山誠二・赤司千恵.（2019）. アク・ベシム遺跡の植物遺存体. 帝京大学文化財研究所研究報告, 18, 19-41
・中山誠二・赤司千恵.（2020）. アク・ベシム遺跡の植物遺存体. 帝京大学文化財研究所研究報告, 19, 17-34

山梨の石文化

文化財研究所　講師
金井　拓人　KANAI, Takuto
URL：https://teikyo-bunkazai.com/

人文科学
文化財研究所

キーワード：水晶、黒曜石、鉱山遺跡

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを
SDGs 目標 17：パートナーシップで SDGs 目標を達成しよう

研究の概要

文化財研究所のある山梨には甲州水晶貴石細工という国指定の伝統的工芸品が存在します。水晶宝飾産業は山梨に水晶の産地があることから成立したものですが、山梨では古くは３万年前の旧石器時代から水晶を利用していました。古墳時代には勾玉などの玉類、江戸時代には眼鏡や印材など様々に利用された水晶ですが、現在ではすべての水晶鉱山が閉鎖され、その歴史をたどることが難しくなっています。私は鉱山調査や出土遺物の文化財科学的調査を通じて山梨県の石文化を記録する研究を行っています。水晶以外には、縄文時代の黒曜石や縄文土器の中の鉱物、甲府城石垣の安山岩の研究も行っています。

水晶鉱山の調査・記録化

石器の赤外分光分析

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

水晶宝飾産業は山梨の特色ある地場産業として位置づけられてきたが、最近では日本遺産「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～」の認定などを受け、文化観光資源としても注目されるようになっている。一方で文化資源化には考古学・歴史学・文化遺産学による調査研究が不可欠であり、本研究は石文化の文化資源化を通じて地域活性化に貢献するものである。同様に縄文時代の黒曜石研究についても、釈迦堂遺跡の土偶など多くの縄文遺物を有する縄文王国山梨を支える基礎となる研究であり、地域住民の地域への愛着を育み住み続けたいまち作りに寄与していくことを目標としている。

知的財産・論文・学会発表など

・金井拓人，2024，山梨県の水晶に関する文化財科学研究，第 29 回山梨科学アカデミー奨励賞受賞記念講演，公益財団法人山梨科学アカデミー
・保坂康夫・金井拓人・池谷信之，2024，八ヶ岳南麓から甲府盆地東部における縄文時代前期後半の黒曜石供給，日本考古学，58，1-18
・金井拓人・保坂康夫・一之瀬敬一，2023, 先史時代の資源としての山梨県産水晶，山梨県考古学協会誌，30，13-23

考古学的にみた社会構造と地域圏の形成研究

文化財研究所　准教授
櫛原　功一　KUSHIHARA, Koichi
URL：https://www.teikyo-u.ac.jp/bunkazai/

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：竪穴住居の設計仕様と集落構造、土器の産地推定、ランドスケープ

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

過去の時間を紐解きながら、人びとがどのような社会的関係、観念のもと、どのように暮らしてきたのかを明らかにするのが考古学である。

わが国では、縄文時代に定住生活が始まると、定型的な集落形成、土器作り、食糧や器財の蓄え、一部の野生動植物の管理栽培、豊かな精神性が発達した。集落はランドスケープを意識したように特徴的な山を背負って立地し、土器型式やモノの広がりから地域圏の形成を読み取ることができる。このようにして、縄文時代は 1 万数千年間に及び、世界的にも自然との共存関係を良好に維持した、安定的で精神的に豊かで平和な時代として評価されている。

縄文時代における居住システムや地域圏の形成過程、それを支えた精神文化を、土器や住居、集落構造、動植物や自然環境との関わり方等から明らかにすることは、私たちが永続的な暮らしを目指すうえで、きわめて示唆に富むものとなるだろう。

そこで土器型式の研究、竪穴住居の設計仕様、集落分析を通した社会構造の解明、山岳地帯での遺跡調査、貯蔵形態の土器における化学分析、土器胎土（粘土成分）の成分分析による産地推定、土偶などの精神的な遺物研究など、様々な視点から縄文時代の研究に対しアプローチを試みている。

写真上：山梨県北杜市明野町の国史跡梅之木遺跡の復元住居。竪穴掘削時の土を屋根に被せた土葺き屋根として復元されている。写真中：梅之木遺跡で、当時の暮らしを再現する縄文人。写真下：博物館教育論の授業では、縄文時代の土鈴製作のワークショップを通じ、縄文時代の暮らしを学ぶ。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

縄文時代は長期間続いた安定的な時代である。とはいえ数百年にわたって集落を連続的に維持した例はほとんどなく、何らかの理由で集落は衰退、消滅、移転を繰り返している。急激な人口の増減、寒冷化や自然環境の変化などの理由で集落を放棄せざるを得なかったケースが想定され、それは集団を維持するための手段であったと考えられる。そうした研究を通して、縄文時代の人びとが直面する課題をどのように解決し、乗り越えたのか、さまざまな教訓を得ることができる。今日の社会のあり方、実生活においても、縄文時代に学ぶべきことは多々あるだろう。

知的財産・論文・学会発表など

・櫛原功一　2009「北陸・中部地方の縄文集落と世界観」『シリーズ縄文集落の多様性Ⅰ　集落の変遷と地域性』雄山閣
・櫛原功一　2009「竪穴住居の型式（中期）」『縄文時代の考古学』8　同成社
・櫛原功一　2011「石囲炉の象徴性」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』15
・櫛原功一　2015「竪穴住居における縄文尺の検討」『縄文時代』26　縄文時代文化研究会
・櫛原功一　2016「住居型式と集落形成」『考古学の地平Ⅰ－縄文社会を集落から読み解く－』六一書房

金属文化財の科学的調査による研究と保存

文化財研究所　教授
藤澤　明　FUJISAWA, Akira
URL：https://teikyo-bunkazai.com/

人文科学
八王子キャンパス

キーワード：保存科学、文化財化学、産地推定、保存修復、国際協力

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 17：パートナーシップで SDGs 目標を達成しよう

研究の概要

主に金属文化財を対象とし、診断分析、材質・技法調査などを通して得られた情報から、文化財の保存や当時の金属加工技術・流通について研究を行っている。具体的な研究は以下である。

1. ジョージアにおいて、紀元前 35 世紀から紀元前 7 世紀までの銅合金製資料を対象とし、合金種の同定および金属材料の産地推定を行っている。
2. イランにおいては初期鉄器時代（紀元前 10 世紀）を中心とする銅合金製資料の診断分析および保存修復を行っている。
3. 中央アジアではキルギスおよびウズベキスタンにおいて古代から中世に至る金属製品について、合金種の同定および金属材料の産地推定を行っている。
4. 国内では、金属文化財や被災した文化財の保存修復研究を行っている。
5. 保存科学および保存修復の分野において、国際協力にかかる研修事業やインターンシップを実施している。（実績：エジプト、イラン、シリア、ジョージア、キルギス）

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

文化財の保存および内在情報の抽出は、歴史研究だけでなく文化財の活用に必要であり、人類社会が豊かな文明を築くことに寄与できる。

文化財は工業製品と異なり一つ一つ形態や状態が異なるため、その調査に適した機器や分析手法の開発が求められている。特に非破壊もしくは微破壊による精度の高い調査手法の開発が必要である。同様に保存修復に求められる技術や材料についても常に開発していく必要がある。特に多用される合成樹脂についてはより化学的に安定した材料の開発が必要である。

知的財産・論文・学会発表など

・藤澤 明，三浦 麻衣子：キルギス共和国アク・ベシム遺跡より出土したコインに用いられた材料と産地推定，帝京大学文化財研究所研究報告，22，pp57-66，2023
・藤澤 明，安部沙耶香：藤田嗣治《おことさん》の蛍光 X 線分析による顔料調査報告，平塚市美術館 紀要，第 1 号，pp28-30，2024
・Akira Fujisawa, Naomi Hemuki: A Diagnostic Study of the Cast-Bronze Great Buddha Statue in the Kotoku-in Temple, Japan, ICOM- CC Metal, pp16-24, 2019

人間存在の哲学的探究

先端総合研究機構　ヒューマニティーズ部門　特任教授
羽入　佐和子　HANYU, Sawako
URL：https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.cc45ebaeb47a0af0.html

人文科学

板橋キャンパス

キーワード：ヤスパース哲学、生命倫理、哲学と科学、実存、理性、コミュニケーション

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

「人間存在に関する哲学的思考」と「生命倫理」を主たる研究テーマとしている。

人間の存在を論じる際には、何に着目するかによって思考法は異なる。人間に関する研究が自然科学から人文・社会科学に至るまで多岐に亘るのはこの事実を示している。哲学は、この多様な科学的思考法を前提としながら、それらを俯瞰することを試みる。

「AI 時代」と言われる現代において、人間の存在とは何かを哲学的に問うとすればいかなる思考法が妥当なのか、この問いを一つの研究テーマとしている。

例えば、身体を有して限りある命を生きていること、そして各人がそれぞれ独自の歴史を刻んでいることに着目することが考えられるが、この場合の思考法はどのようでありうるか。

この問いは生命倫理を議論とも関連する。

生命倫理に関する議論は、そのテーマからして個別の状況から出発せざるを得ない。ただし、一人ひとりの生は学問としてどのように位置づけられるのか。個別の問題を一般化し理論として論じることの妥当性は古代ギリシャ以来哲学の問いであり続けている。

これら二つの研究テーマは哲学と科学の関係について考察することでもあり、根本的に人間の存在を問うことでもある。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

AI が急速に進化している社会の状況において、その技術を活用しながら人間をどのような存在と見なすかが問われています。それは、自然環境が急激に変化しつつある中で、社会の発展の在り方を問うこととも密接に関連しています。

国連の「持続可能な開発目標 SDGs」にはこの種の問題意識が根底にあり、それぞれの課題に取り組むには、人が生き人類が存続するための基本的な考え方が重要な要素となっています。そのためには、この種の課題に取り組み判断を下すための思考が必要であると考えています。

そこで、これまでの大学や研究機関などでの組織運営の経験と研究活動から得た知見を基に、哲学的思考をどのように組織運営に取り入れるか、という観点から社会に寄与することを目指しています。

知的財産・論文・学会発表など

［著書・編著］

- 羽入佐和子著『思考のレシピ』ディスカバー・トゥエンティワン　2014 年
- 羽入佐和子著『ヤスパースの存在論ー比較思想的研究ー』北樹出版　1996 年
- 羽入佐和子編著『科学に学ぶ心の教育』日本図書センター　1999 年

［研究論文］

- 'The Role of Reason in Scientific and Technological Age from the Perspective of Jaspers' Philosophy', in *Karl Jaspers; Historic Actuality,* ed. by Andreas Cesana / Gregory J. Walters, Könighausen & Neumann, pp.161-170, 2008, Würzburg.
- 'Existenz Philosophy in this informational Age, in *Karl Jaspers' Philosophy: Rooted in the Present, Paradigm for the Future,* ed.by L.H.Ehrlich and R.Wisser, Könighausen & Neumann, pp.265-270, 2003, Würzburg.